

青 山

地球社会共生論集

第 8 号



青山学院大学地球社会共生学会

2024年 3 月

目 次

【論説】

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性 ー 21 世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のためにー	藤 原 淳 賀 ... 1
--	---------------

【研究ノート】

人はどのような状況で幸福と感じるのか ー テキストマイニングを用いた幸福研究の助走としてー	小 堀 真 ... 31
---	--------------

青山学院大学地球社会共生学会会則.....	56
執筆者紹介.....	59
編集後記.....	60
英文要約.....	61
青山学院大学地球社会共生学部評議員	

CONTENTS

[Article]

Absolutes and Relativities in Christian Social Ethics: For Japanese Christianity in Times of War in the 21st Century	Rev. Prof. Atsuyoshi Fujiwara, Ph.D.··· 1
--	---

[Notes]

What situations make people feel happy? As a Preliminary Investigation into Happiness Research Using Text Mining	KOBORI, Makoto··· 31
--	----------------------

[Summary]	61
------------------------	----

【論 説】

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性： 21 世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために¹

藤 原 淳 賀

序

1. 『キリストと文化』におけるキリスト教信仰の絶対性と相対性（H・リチャード・ニーバー）
 - (1) 永続的問題（Enduring Problem）
 - (2) 神中心相対主義（Theo-centric Relativism）
2. 「結ぶことと解くこと（Binding and Loosing）」におけるキリスト教社会倫理の相対性（ジョン・H・ヨーダー）
3. 日本キリスト教史における 2 つの事例：絶対性と相対性の問題を明確にするために
 - (1) 『日本の花嫁（*The Japanese Bride* [1893]）』問題
 - (2) 日本万国博覧会（1970）キリスト教館問題
4. 戦争に対するキリスト教の態度
5. 平和を作る霊性
6. 「平和『主義』」を超える神の主権と限界状況（Grenzfall）（カール・バルト）
7. 絶対平和主義と平和優先主義

結論

序

大学の授業で学期の始めに、学生たちに質問をする。

「キリスト教は絶対的な宗教なのか？」

「キリスト教の先生が聞いているのだから、イエスと答えるべきだろう」と思っている学生もいる。「多くの宗教の中の一つに過ぎない」と思っている学生もいる。

私の答えは「YES and NO」である。

絶対的な神からの啓示から始まっているという点で、キリスト教には絶対的本質がある。しかしその啓示は、有限であるだけでなく、罪ある人間によって、それぞれの文化と状況の中で受け取られ、解釈されてきた。それが「キリスト教」である。そこには不可避免的に相対性がある。教会史を紐解くと、文化的多様性だけでなく多くの罪を容易に見出すことができる。そしてその多様性と罪という相対性の中で絶対的な神が愛をもって働かれるのである。

すべての人が罪人である以上、教会は常に問題を抱えている。改革は常に必要とされている。西方のローマ教会と東方の諸教会は、長年にわたるテンションを経験した後²、1054年には相互に破門をした³。カトリック教会で1517年に起こった大きな批判改革運動は、破門されたマルティン・ルター（1483-1546）が生き延びたこともあり、伝統や教皇の上に聖書の権威を置くプロテスタント緒教会を生み出すことになった。しかしそのプロテスタント改革運動初期の指導者ルターとツヴィングリ（1484-1531）でさえ、聖餐をめぐって一致できず、袂を分かつ。ツヴィングリが指導したチューリッヒでは、ツヴィングリが誠実に聖書に従わず市当局と妥協しているとして、再洗礼派が生まれ、彼らは迫害を受ける。聖職者の参戦は当時も認められていなかったが、ツヴィングリは剣を持って第2次カッペル戦争に行き、戦死する（1531）。再洗礼派は今日まで平和主義を保っている。イングランドでは、ヘンリー8世（位1509-47）によるカトリック離脱（Act of Supremacy, 1534）と、娘メアリー1世（位1553-8）によるカトリック復帰を経験した後、中道（Via Media）を行くイングランド国教会が生まれた。これらはキリスト教の相対性の現れである。

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために

すべてのキリスト教会は、中核的な教義、受肉された神イエス・キリストにおける三位一体の神の啓示と、キリストの十字架と復活による罪からの救いを絶対的事柄として受け入れている⁴。しかし制度的キリスト教会は様々な形態を取っており、その相対性を表している。そして、その社会倫理においては、戦争に対する態度を含めて、一致しているわけではない。それは相対的な事柄だからである。

21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために

2011年3月、絶対に安全だといわれてきた福島原子力発電所が爆発した。その後、日本の世論は、反原発へと明確に舵を切った。キリスト教会においてもそれは同様であった⁵。

あれから12年⁶。

原子力発電所再稼働を容認する人々は、2023年7月、朝日新聞の調査で51%を超え、福島でも56.6%（前年比10.6ポイント増）となり、初めて半数を超えた。この転換の大きな理由としては、電気代の高騰以外に誰も指摘していない⁷。ロシアによるウクライナ戦争のため、光熱費が高騰した。電気代が上がったから世論が大きく変わったのである。

また防衛費増額については、産経新聞社とFNNの合同世論調査によると、賛成62.5%、反対29.8%。朝日新聞の調査でも、賛成51%、反対42%となっている⁸。21世紀におおよそ想定されていなかったロシアによる野蛮な戦争を目の当たりにして、ロシアを含む3つの独裁的核保有国を隣国に持つ日本人は脅威を感じ、世論は現実的な路線に向かっている。

第二次世界大戦後、日本は、あのような戦争を二度と経験したくないという思いから、平和主義を強く望みその道を歩んできた。戦争協力をしたという罪悪感のあるキリスト教会では、国民世論以上に、平和主義を支持してきた。

しかしもし万一、北東アジアでの有事が現実のものとなった場合、日本のキリスト教会、キリスト教主義大学は冷静に、神学的に、対応できるだろうか？

1933年ヒトラーが政権を取る。ボン大学で教えていたカール・バルト

(1886-1968) は「あたかも何事も起こらなかったかのように」「神学を、そして神学だけを」以前と同じように続けていくと語っている⁹。バルトは、現実世界から目をそらし「何もしない」と言っているのではない。バーゼル大学で博士論文を書き、バルトを指導教授としていた大学院生以上にバルトのセミナーに出ていたと自ら語るジョン・ヨーダー（1927-97）が指摘するように、バルトは、このことを語りながらパンフレット・シリーズ「今日の神学的存在（*Theologische Existenz heute*）」を刊行しているのである¹⁰。それは、ナチズムは、十戒の第一戒（神のみを神とする）に対する違反であるとする神学的批判であった¹¹。

「日本のバルト主義者」は、バルトを誤解し、社会問題から目を逸らせた。それは彼らにとって都合がよいことでもあった。当時の日本で社会問題に正面から取り組み、軍国主義を批判したなら、身の危険を招くことになった。彼らは、神の御言葉（聖書の言葉）の説教に集中し、戦争を始めとした社会問題を取り扱わなかった。

しかしバルト自身は、直接に政治を語らなかったが、（ドイツから、より安全な母国スイスのバーゼル大学へと移動したとはいえ）この現実を見ながら神学をしていた。それは後述の、満州事変における H・リチャード・ニーバー（1894-1962）の 1932 年の論文に通ずる態度、政治的意識である。そして 2023 年度、ロシア・ウクライナ戦争とイスラエル・ハマス戦争の中で、われわれは戦争と平和の問題を論じている¹²。

「その時」に備え、自らの位置を明確にするためには、深い神学的考察と、起こり得る大きな悪と危険についての現実的把握、それに対する対処の考察が必要になる。日本の教会の多くが立っている平和主義は揺るぎないものだろうか。あるいは、何かが起こった時、おそらく急激に右傾化するかもしれない世論に飲み込まれるだろうか。本稿は、その準備を促す神学的議論である。それは、絶対的なものを相対化し、相対的なものを絶対化してはならないという主張である。日本の教会はそのような誤りのかつて犯してきた。その例として、「日本の花嫁」事件と日本万国博覧会（大阪万博）問題を取り上げる。

1. 『キリストと文化』におけるキリスト教信仰の絶対性と相対性

(H・リチャード・ニーバー)

H・リチャード・ニーバーの著作の中で最も読まれたのは、長くハーバード大学で教えた息子のリチャード・ラインホルド・ニーバーによると、『キリストと文化』（以下 *C&C*）である¹³。それは多くの批判を経て、今日でも影響力のあるキリスト教社会倫理学の古典となっている。

ニーバーは、絶対的啓示である「キリスト」と相対的な状況である「文化」の中で、「キリスト教」が形成されると考える。したがって、問題は「キリスト教と文化」ではなく、「キリストと文化」であるとする¹⁴。

(1) 永続的問題 (Enduring Problem)

この「キリストと文化」の間のテンションは、キリストが受肉した1世紀のパレスチナにおいてだけではなく、今日にいたるまで続いているとニーバーは論じている。

キリストと文化の問題は、パウロと、福音のユダヤ化およびヘレニズム化を企図した人々との戦いの中に存在したが、また福音をギリシアの言語および思考の形式に翻訳しようと試みたパウロ自身の努力の中にもあったのである。同じ問題は、ローマ帝国や地中海世界の諸宗教および哲学との教会の初期の戦いに現れたし、また支配的な社会慣習、道徳的原理、形而上学的理念、社会的組織形態などに対する教会の拒否および受容においても現れたのである。コンスタンティヌス帝の情勢安定、主要信条の形成、教皇制の勃興、修道院運動、アウグスティヌスのプラトン主義、トマスのアリストテレス主義、宗教改革とルネッサンス、信仰復興と啓蒙思潮、自由主義と社会的福音—これらはいずれも同じ永続的問題の歴史における多くの諸章のいくつかを示すものである。同じ問題は、あらゆる時代にまた多くの形で、理性と啓示、宗教と科学、自然法と神律、国家と教会、無抵抗と弾圧などの問題として現れている。そしてそれは、プロテスタンティズ

ムと資本主義、敬虔主義と国家主義、ピューリタニズムと民主主義、カトリシズムとローマニズム (Romanism) やアングリカニズム (Anglicanism)、キリスト教と進歩、などの関係に関するような特殊な研究において現れてきたのである。¹⁵

そしてこの「キリストと文化」のテンションは、21 世紀のロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争、ヨーロッパの移民問題、そして北東アジアの状況にキリスト教会、キリスト教主義大学がいかに対応するかにおいても現れている。

(2) 神中心相対主義 (Theo-centric Relativism) ¹⁶

H・リチャード・ニーバーはエルンスト・トレルチ (1865-1923) とバルトの橋渡しが必要であると考えていた。ダグラス・C・マッキントッシュ (1877-1948) のもとで彼が書いたイエール大学での博士論文「エルンスト・トレルチの宗教哲学 (Ernst Troeltsch's Philosophy of Religion, 1924)」は、彼のキャリア全体の神学に大きな影響を残した。C&C の 5 分類は、トレルチによる有名なキリスト教会の 3 分類 (*Kirche, Sekte, Mystik*) の発展である。ニーバーは、トレルチ的な文化歴史的相対主義の研究成果を神学的考察の前提としている¹⁷。それはいわば、十字架に例えるなら、水平次元の事柄といってよい。そしてバルト的な絶対者としての神と、神の前における実存的な信仰の大切さをよく理解していた。それは垂直次元の事柄である。しかもニーバーは、キルケゴール的な個人主義的実存主義 (わたしがそのために生き、そのために死ぬことができる真理) を超え、共同体的実存主義 (Social Existentialism) 的な神学を志向していた。すべての人が受け入れるべき強制力をもったドグマ的キリスト教ではなく、「わたしたちはこう信じる」という自発的な共同体的告白としての信仰である¹⁸。それはイエールの物語神学の伝統へとつながっていく。

C&C においてニーバーは、キリスト教を 5 つのタイプに分けている。文化の罪を鋭く批判する Christ against Culture、文化を肯定する Christ of Culture。

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
この2つの極端なタイプのキリスト教の間に3つのより穏健な Christ above Culture、Christ and Culture in Paradox、Christ the Transformer of Culture が論じられている。

ニーバーにとって、最も適切なタイプのキリスト教が、最後の Christ the Transformer of Culture である事は明らかである。他のすべての4つのタイプのキリスト教が、その優れた点と問題点が論じられているのに対し、この第5番目のタイプにおいては、否定的な内容が記されていない。

このことから、ニーバーの5分類は、客観的記述ではなく、読者をこの5番目のタイプへと導くようにデザインされているという批判もある。

しかしニーバーは、神中心相対主義 (theo-centric relativism) を非常に重要なものと考え、謙虚に自らの信仰を告白しようとしている。神中心相対主義は Acknowledgments (謝辞) において言及され、同書全体を通して読み取ることができる。たとえば、Christ against Culture は、最も新約聖書のイエス・キリスト像に近いと記している。その逆に Christ of Culture は、新約聖書のキリスト像を最も歪めているが、文化肯定的態度のゆえに学術的知識人たちに対する優れた宣教師であると記している。

魚が水の中に生きるように、人は常に文化の中で生きる。神からの絶対的啓示に始まり、文化の中で神に応答するすべての真摯なるものに対して敬意を払う。それがニーバーの神中心相対主義である。決して「絶対というものはない」という相対主義でもなく、「何でもよい」という相対主義でもない。絶対者なる神に対して自分と異なる意見をもって、さまざまなかたちで、真摯に応答しようとしてきた人々の伝統に対する敬意がそこには見られる。

「キリスト教」には常に罪があり、常に誤りがある。しかしキリスト教には、「悔い改め」が安全装置のように組み込まれている。神のみを絶対者とし (Radical Monotheism)¹⁹、神の前に跪き、自らの罪を告白し、悔い改め、神を愛し隣人を愛し、へりくだって互いに他者を自分よりも優れた者と考え²⁰、前に進む。それが絶対者の前に、罪深き相対的存在として、救い主イエス・キリストを信じ、その愛のうちに天に向かってこの地で生きるというキリスト者の態度である。

2. 「結ぶことと解くこと (Binding and Loosing)」におけるキリスト教社会倫理の相対性 (ジョン・H・ヨーダー)²¹

ジョン・H・ヨーダーは20世紀のメノナイトの神学者である。彼は、平和主義の観点から重要な神学的主張を提起したことで知られている。ノートルダム大学で共に教え、後にデューク大学に移ったスタンリー・ハワーワス(1940-)の平和主義に決定的な影響を与えた。

ヨーダーは、マタイ16章のペトロの「イエスはキリストである」という信仰告白に続く箇所、特に18章の「きょうだいがあなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところでとがめなさい」から始まる、「あなたがたが地上で結ぶことは、天でも結ばれ、地上で解くことは、天でも解かれる」ことに注目する²²。

その聖書箇所は、もし誰かのうちに罪を見出したなら、個人的に訪問してその人と話すように語っている。そして罪を指摘し、その人と責任を持って関わることでありとヨーダーは指摘する。原則によって人を審くのではなく、あくまでも互いを知る関係において悔い改めを願い、関係の回復を求めながら関わっていくことがここで意図されていることを指摘している。

そしてヨーダーは、この議論の中で、真摯なる信仰者の信仰的決断の相対性と信仰共同体(教会)への自発的参与について触れている。

戦争で人を殺すことは、メノナイト教会では罪であるが、ルター派の教会ではそうではない。異なる基準を持つ他の教会の存在を知るとは、訓戒される人が、犯した罪の本質を認めることを妨げかねない。

それに対する答えの一つは、訓戒がその個人が自発的にその一員となった会衆の誓約に基づいているという事実である。もしその人が、ルター派ではなくメノナイトの会衆に自発的に入会したのであれば、その人は平和主義を教規の一部として受け入れているのである。²³

ルター派の教会で認められている戦争参加が、メノナイトの教会では罪とさ

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
れる。その人が自発的に選んで教会の一員となるときに、それがメノナイト教会であれ、ルター派教会であれ、その教会の社会倫理も選び取ることになるというのである。

ヨーダーのこの議論を、ヨーダーを個人的に知っている研究者たちと話するとき、皆一様に驚く。そして「ジョンは絶対に平和主義が正しいと説得するはずだ」という。おそらくそうだろう。しかしここでは、「にもかかわらず」、20世紀で最も雄弁な平和主義神学者ヨーダーは、戦争に対する態度を論じながら、社会倫理の相対性を認めていることに注目したい。

3. 日本キリスト教史における2つの事例：絶対性と相対性の問題を明確にするために

日本のキリスト教会は、絶対性と相対性の問題を明確に区別できないことがあった。その2つの例として、「日本の花嫁」問題と日本万国博覧会・キリスト教館に関する問題を取り上げたい。

(1) 『日本の花嫁 (*The Japanese Bride* [1893])』問題

「日本の花嫁」問題とは、田村直臣牧師（1858-1934）が米国で *The Japanese Bride* (1893、明治26) を出版したことから起こった一連の出来事を指す²⁴。

田村は、1879年（明治12）12月24日に接手を受け、草創期の日本の教会を支えた指導者のうちの一人であった。彼は、築池大学校（宣教師による英語学校）で学び、1874年に洗礼を受けている。東京一致神学校、オーボン神学校で学び、プリンストン神学校、プリンストン大学を卒業している。欧化時代の日本で、アメリカ事情に詳しく田村は重宝された。

田村は『米国の婦人』（1889、明治22）を日本で出版した²⁵。米国における男女同権を紹介し、キリスト教によって日本に男女の平等を実現し、新しい家庭を作ることを提唱した²⁶。これは歓迎され、広く受け入れられた。

しかし1893年、日本の女性の状況について田村が *The Japanese Bride* (1893) を米国で出版すると、全く異なる反応が日本で起こる。日本の恥を外国に知ら

しめたとして、新聞「日本」、「万朝報」が批判した。大小 200 以上の新聞がそれらを転載し、同書の日本語版は発禁処分を受けている²⁷。同書は、確かにいくぶん日本を貶めているようにも読めるのだが、これは明らかに過剰反応であったといってよい。

さらに田村と同じ日に接手を受けた井深梶之助を含め 3 人の牧師が、日本基督教会第一東京中会に告訴状を提出し、中会は同胞譏誣罪^{どうほうざんぶざい}で田村を譴責にした。田村はそれを不服とし、日本基督教会大会に上告した。大会は更に厳しく、田村から牧師資格を剥奪した。同胞の恥を海外に知らしめ、反省の色がないというのが理由である。

古屋安雄は「イエスはキリストであるという信仰告白を認めない牧師がいても、その教職の資格を剥奪しない。あるいはできない現在の日本基督教団の現状を見ると、いかにこの事件が教会にとって大きな問題であったかわかるであろう」と記している²⁸。絶対的な事柄を相対化し、相対的な事柄を絶対化するという過ちをここに見ることができる。

三位一体なる神の愛、人の罪、御子イエス・キリストの十字架と復活による贖罪、神を愛し、隣人を愛するというキリスト者の生き方といった、キリスト教信仰の中心的事柄の正統的伝統からの逸脱ではなく、日本の婦人の地位が低いことを海外に知らしめたという相対的な事柄、しかも事実を記したことにより、田村は牧師資格を剥奪されたのである。これは相対的な事柄の絶対化であった。

(2) 日本万国博覧会（1970）キリスト教館問題

第二次世界大戦後の冷戦の中、日本においても、共産主義・社会主義の影響は大きかった。1960 年代後半から 1970 年代にかけては、特に社会が不安定で困難な時代であった。ベトナム戦争（1961 頃 -75）反戦運動、大学紛争（1964-70）、チェコスロバキアへのソビエト連邦軍事侵攻（1968）、日米安全保障条約の自動延長（1970.6.23.）を巡っての紛争、成田空港土地収用問題（三里塚闘争）（1966-）、沖縄返還（1972 年 5 月 15 日に実現）、沖縄キリスト教団と日本基督

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
教団の再合同（1969）といった一連の問題が起きている²⁹。

毛沢東のいう「造反有理」、暴力革命も辞さずというのが、左翼勢力の主張である³⁰。これは1960-70年代の社会に暴力的紛争をもたらし、大学に暴力的紛争をもたらしただけでなく、キリスト教会にも暴力的紛争をもたらした。1970年に大阪で持たれた日本万国博覧会への参加を巡ってキリスト教会は大きく割れた。

日本最大のプロテスタント教団である日本基督教団の紛争は1969年9月1日に暴発した（9・1、2事件）³¹。銀座・教文館会議室で持たれた会には150人出席し、驚くことに9/1（13：30）-9/2（8：10）まで約19時間も続いた。日本万国博覧会参加を巡る問題が中心であり、推進派の北森嘉蔵（東京神学大学教授）は、この会で2度も殴られている。翌日、東京神学大学教授会はこれを非難する声明を出している³²。また東京神学大学は1970年3月、学生によるキャンパス封鎖を解除するために機動隊を導入した。神学校に国家権力を導入したということが問題となり、日本基督教団内での対立を生むことになる。

第18回日本基督教団総会（1974.12.10-13、箱根小涌園）が開かれた。しかし、9・1、2事件と大阪万博の関係教区である東京教区、大阪教区は紛争のため代議員を出すことができなかった。教団教規の規定（400名総会議員）に満たない議員数（231名）で行われた教団総会は、『日本万国博覧会キリスト教館に関する件』の決議の誤りを認める件、「東京神学大学機動隊導入の誤りを認める決議」等を可決した。

大木英夫（東京神学大学教授）は、翌月1975年1月号『形成』で以下のように記している。

一体何が勝利したのか。それは「教会というべきものではない」ものが勝利したのだ。東神大問題とは、造反的教会論を容認するかしないかという問題だと言ってもよいのである。東神大が教団紛争に巻き込まれたのは、いわゆる九・三教授会声明という九・一-二集会の暴力行為批判の声明からであった。その声明の中に「万博キリスト教館そのものに対する賛否は

別として」という論議をかもした一句がある。これはあたかも氷山の一角のようで、のちに発表された教授会文書が明らかにしているように、そこにひそむ基本的理念は、教会はキリスト主権を絶対とすることによって、社会倫理的認識や実践においては相対性・多様性を認めるという原則であった。これは最初から今日まで首尾一貫守られてきた立場である。これによって万博キリスト教館を絶対的な悪とし、それと戦わないものはキリスト者でないとするような社会倫理的レベルの事柄を絶対化することは否定される。教授会の大多数は、あるいは万博そのものに批判的であり、あるいはキリスト教館建設に賛成でなかったが、万博キリスト教館が教会のおかした絶対的悪だとは考えなかったし、またそれに意味を認めて努力する人びとに対しては、パウロがピリピ書で言うように、「すると、どうなのか。見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに、伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでいるし、また喜ぶであろう」という寛容を守った。しかし、キリストを神と信じ告白する一点では明確でなければならないという態度であった。東神大紛争は、この「神関係の優位」（と七十人会とよばれた学生たちは言った）を守り、社会実践をその下に正しく位置づけるという教会の原秩序をめぐるとたたかいであった。教授会と七十人会の学生たちは、この点で完全に一致した。東神大が一貫してたたかい守り抜いたのは、この教会性の原秩序である。

第一八回総会において起こったことは、この原秩序の転倒なのである。総会第一日目、鷺山林蔵議員と戸田議長との間に、キリストに対する信仰告白において相対化をゆるされないものがあることについて、短いが重要な議論があった。鷺山議員は、福音のために立派な発言をしたが、戸田議長は、彼特有のあいまいさをもってしきりに信仰告白の解釈の多様化をたてにとって信仰告白の次元に相対性をもちこむ努力を披瀝した。これは造反をかかえ込む努力でもあった。一般には戸田議長の言う相対化とは万博や東神大のような事柄において対決を回避する方法として受けとられていたが、この戸田氏の発言の中で明らかになったことは、相対化を主として

信仰の次元にひき入れ、そして第二日の反万博決議や第三日の東神大決議の方向性を新しく選ばれた議長として歓迎したことで明らかになったように、社会倫理的レベルの＜方向性＞を絶対化するということであったのである。

この総会では、教会において優位に立たしむべきものを、相対性という下方にひきおろし、下位に位置づけられるべきものを上位におくという、教会性の原秩序の転倒が起こったのである。この逆立ちした教団は、ますます一種の政治集団化していくであろう。³³

ここで重要なことは、「絶対的な事柄を相対化し、相対的な事柄を絶対化した」という指摘である。このような過ちを、日本の教会はこれまでに大きな痛みを持って経験してきた。

万博問題を中心としたこのような破壊的紛争は、制度的には教会という組織の中で起こったのだが、伝統的なキリスト教信仰を逸脱した主張と暴力によって教会が傷つけられた出来事であったように筆者には見える。（「暴力も主張である」[戸田伊助]という当時の造反派の主張は、今日、先進国では受け入れられない³⁴。）それはキリスト教の皮を被った、あるいはキリスト教信仰に従って生きることができなかった、信仰告白の外にいる人々による教会の破壊であったように見える。教会ではない外部からの異物による教会の破壊といってもよい。キリストの体（教会）に侵入してきた散弾が肺を破り肝臓を傷つけ、付着していた細菌が長期にわたってさらなる病を引き起こすようなものである。愛と恵み、ゆるしと憐れみという天の御国の性質とはおおよそかけ離れたものである。

予備的関心を究極的関心とすることをパウル・ティリッヒ（1886-1965）は偶像礼拝と呼ぶ³⁵。それは相対的なものを絶対化することといってもよい。相対的な事柄である、特定の左翼イデオロギーや、キリスト教館反対といった特定の社会的立場を、キリスト教にとって絶対的なものとすることは偶像礼拝である。そしてその偶像は、日本の教会に暴力を用いることを要求し、教会を破

壊してきたのである。

そしてこのような相対的事柄の絶対化（偶像礼拝）は、戦争に対する日本のキリスト教の態度を論じる中でも起きるかもしれない³⁶。

4. 戦争に対するキリスト教の態度

われわれは、21世紀の日本の教会が（世界の他の教会とともに）直面している問題に目を向けなければならない。戦争に対するキリスト教の態度は、一様ではない。イエール大学の歴史学者ローランド・H・ペイントン（1894-1984）は、平和主義、義戦論、十字軍という枠組みで、2000年に亘るキリスト教会の戦争観を論じている。戦後日本のように絶対平和主義の立場を取ってきた教会は、極めて少数派である³⁷。

4世紀終わりにローマ帝国の公定教会となるまで、教会は深い神学的議論をする余裕はなく、戦争についても統一された見解はなかった。ただイエス・キリストの教えに忠実に生きるとき、人を傷つけ、あるいは殺すという選択はないと考えていた。

帝国の公定教会として、社会全体に責任を持つようになった教会は、現実的な義戦論の立場を取ってきた。攻められたときには、軍が敵を止め、人々を守り、奪われたものを取り戻す。これは正当なことだと考えた。ただし戦争は、軍人同士が行うものとした。一般市民や聖職者は参戦すべきでないと考えた。

ヒッポのアウグスティヌス（354-430）は、西ゴートによるローマの略奪（410）を受けて『神の国』を書き、ヴァンダルによるヒッポの破壊行為が続く中、430年に生涯を終えた。ヒッポは翌年陥落する。彼は個人的レベルでは人を傷つけるような人ではなかったが、公的レベルにおいては、蛮族から人々を守るために、軍隊がその役割を果たすべきであると考えた。隣国ロシアが起こしたウクライナ戦争の中、今日の日本は、過去70数年よりも、アウグスティヌスの義戦論の背景を理解しやすいであろう³⁸。

スイス改革派の創始者ツヴィングリの戦死は既に触れた。カトリックと戦い、第二次カッペル戦争（1531）で戦死した牧師ツヴィングリは、義戦論の基準か

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
ら逸脱している。彼の剣は彼の聖書と共にチューリッヒ駅近くの国立博物館に
展示されている。

日本のキリスト教会も初めから平和主義であったわけではない。16世紀の
カトリック宣教は、スペイン、ポルトガルによる植民地化と共に行われていた。
日本では戦国時代であった。

コンキスタドール（conquistador、征服者）メンタリティーを持ったポルト
ガル人、スペイン人が支配的であった16-7世紀のイエズス会が戦争を否定す
るということにはなかった。南米諸国侵略の歴史を見れば明らかである。日本に
も軍事力を持ち込み武器弾薬を溜め込む試みが実際にあった。秀吉の軍事力が
大きかったこともあり、それが実現しなかっただけである³⁹。

日本宣教では、スペイン人でもポルトガル人でもない、フランシスコ・ザビ
エル（1506-52）とアレッサンドロ・ヴァリニャーノ（1539-1606）の存在が大
きかった。ザビエルは、パリ大学時代にイグナティウス・デ・ロヨラ（1491-1556、
イエズス会初代総長）とルームメートであり、共にイエズス会を創立した7人
の一人であった。また彼は、フランスとスペインとの戦争によって祖国を失っ
たナバラ人である。戦争の痛みを経験し、文化的民族的少数派として生きた経
験があった。彼は、ゴアにいたときはインドの文化を重んじ、日本では日本文
化を重んじた。巡察使ヴァリニャーノは、当時ヨーロッパの二流市民とみなさ
れていたイタリア人である。コンキスタドールのメンタリティーの少ない彼らが
イエズス会の日本宣教で大きな影響力を持ったのは幸いであった⁴⁰。

明治期プロテスタントの中心的指導者には佐幕派の武士階級の出身者が多
かった。藩の主君を失い、真の主君としてのイエス・キリストに仕えた人々で
あった。戦いは武士のDNAの中にある。また当時の教会の社会倫理は、一般
社会の社会倫理はほぼ同じであった⁴¹。

特異な存在は内村鑑三であった。彼は、教会の独自性、他者性を強烈に意識
しており、社会と同調する教会を批判した。内村もまた武家の出身であったが、
その潔さと誠実さの武士道倫理は、途中から戦いとは異なる方向へと向かった。

教会は常にこの世と主義方針を共にします。この世が戦争を唱えます時には熱心に戦争を唱えます。この世の世論は常に教会の世論であります。教会はこの世の政治家、事業家、学者らの名を借りてその事業をなさんといたします。しかして私はイエスの弟子（でし）として、教会と歩調を共にすることはできません。⁴²

内村は、日清戦争は支持したが、その悲惨さを見て、日露戦争を批判し非戦論を唱えた。そして社会からも教会からも激しい批判を受けている。

日本社会が、また日本の教会が反戦平和主義に大きく振れたのは、第2次世界大戦後の現象である。あの悲惨な戦争の後、日本は戦争に直接関わることなく、国の復興と経済活動に集中した。そして科学技術をもって世界に貢献してきた。それは「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求する」（日本国憲法第9条）と決めた戦後の日本にふさわしい歩みであった。また今日、世界における日本の貢献度の評価は総じて高い⁴³。

日本のキリスト教会は、戦後にキリスト教ブームを経験した。しかし冷戦下で左翼勢力の影響を強く受け、キリスト教会やキリスト教学校も破壊的な紛争を経験した。社会問題に関わったバルト自身とは異なり、「日本のバルト主義者」は教会の働きを聖書の御言葉の宣教と教会内にも限定した。彼らの影響もあり、日本のキリスト教会は現実的社会倫理を神学的に議論してこなかったし、社会の問題に建設的に関わってこなかった。これは戦前の教会との大きな違いである。

戦後70年以上、日本の教会は平和主義の理想を語ることができた。平和主義を語れば戦争は起こらないかのごとく、ナイーブな絶対平和主義を保持してきた。「お花畑」マインドと揶揄されることもある。今も朝鮮戦争の停戦中で、徴兵制を持つ韓国の教会とは、戦争に対する見解が大きく異なる。憲法9条は、日本が他国を攻めないためには有益であるが、他国に攻められることから日本を守るものでは必ずしもない。そして残念なことであるが侵略行為は起こり得る。このことをわれわれは経験的に知っている。戦後の日本は、様々

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のためにな要素が重なり現在まで侵略されることがなかった。それは本当に幸運なことであった。しかし、大方の専門家の予想に反して、国連常任理事国である隣国ロシアが2022年ウクライナを攻め、さらには核兵器の使用について言及する。そういう状況の中でわれわれは生きている。

戦争では、殺人、破壊だけでなく、レイプ、強奪、嘘言、憎しみ、経済疲弊、飢餓、その他のあらゆる悪が起こる。国も教会も、現在の状況の中で、人々の生活が守られ、平和を作り、戦争が起こり難くすることに尽力しなければならない。そしてそのために何が有効なのかを、「相対的な事柄」として、知っておく必要がある。

その社会倫理的研究には、統計的研究、国際関係論、経済学、政治学、軍事研究等の議論が応用される必要がある。キリスト教社会倫理学者も、基礎的な研究については知っておく必要がある。(1) 民主主義の促進（含言論・報道の自由）、(2) 同盟関係（ウクライナは同盟国を持たなかった）、(3) 近隣諸国と同程度の軍事力を持つ（弱いとみなされると攻撃されやすい）、(4) 経済的相互依存関係、(5) 国際組織への加盟といったことが、戦争抑止になることがわかっている。これらは平和主義、義戦論といったイデオロギーとは関係のない統計学的研究成果である⁴⁴。

このような状況の中で、キリスト教会は、戦争反対、憲法9条堅持、非武装中立を唱え、非難声明を出すだけでなく、戦争にならないために、そしてもし万一戦争となったら、いかなる道を取るべきかということを真剣に議論しておかなければならない。そしてその際には、われわれが「相対的な事柄」を論じているのだという認識が必要である。相対的な事柄とは、真摯なキリスト者の間であっても、異なる意見・対応があるものである。

4世紀末以降の西方ローマ・カトリック教会、東方正教会、ルター派、改革派、イングランド国教会といった主流派の教会が、伝統的に絶対平和主義の立場を取ってこなかったことを覚えておく必要があるだろう。もし絶対平和主義の道を選ぶのなら、3世紀までのキリスト教、平和的修道院（フランシスコ会）、平和教会（アナバプテスト等）の伝統に学ぶべきであろう⁴⁵。

教会は、その2000年の歴史の中で、最初の3世紀、またその後も信教の自由を認めない国や地域で、殉教者を出してきた。日本のキリシタン時代、困難な迫害下、9割は棄教したが1割は信仰を保持したといわれる。その中には殉教した人もいる。国外追放になった人もいる。地下で密かに信仰を保持した人もいる。260年後、7代先の子孫が信仰告白をするという驚くべき信仰継承をした人達もいる。途中で信仰を失った人もいる。途中でキリスト教とは異なる混合宗教的になった人もいる。困難な現実の中で、われわれの信仰の祖先は様々な道を辿ったのである。われわれは、彼らの選択を論じることはしても、審くことはしない。それは神がなさることである。

人が罪人である限り、争いはあり、われわれの願いに反して戦争は起こる。北東アジアはその例外ではない。例外でないどころか今日、世界の中で最も危険な地域の一つと考えられている⁴⁶。

戦争の中で、キリスト者として絶対平和主義を保持し、殉教する人も出てくるであろう。また義戦論の立場から、戦いを認める人、戦う人もいるだろう。黙る人、日本を去る人もいることだろう。その時にどのような対応をするのかを、自分と異なる立場に立つ人を非難することなく、オープンに対話しておく必要がある。

教会は、平和を作ることが神の御心であることを知っている⁴⁷。平和を保ち、少なくとも戦争を起こさないために有益な対応を、平和憲法を持つ日本は求めなければならない。

そして教会は、そしてこの世において神の性質を体現する中で、比較的平和を作り出しやすい道を支持し、人々のいのちと生活が守られるような道を支持するのが適切であろう。ウクライナで起こったようなことがこの国で起こらないように祈りつつ、国際平和のための現実的な方法を希求するということである。

平和を作り出す神の民というアイデンティティをもって、それらの対応策に対して個別に支持、保留、否定し、また新たな提案をすべきである。キリスト教会は、2000年の間そのようにして文化を変革してきた。そして過去の失敗

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
から、その際に、特定の立場を絶対化し、「政治集団化」しないことを学ぶ必要がある。特定の政治的立場を偶像化してはならない。絶対者である神を知る教会は、誰よりも、相対的事柄を、相対的事柄として、論じることができるはずである。

神と共に歩み、世界史的視野を、そして終末的視座を持つ教会は、21世紀の日本がなすべき世界史的貢献は何なのかという視点を持つ必要がある。この国の長い歴史と、国民性、強さと弱さを念頭に置き、この国が平和を作り維持し、世界に貢献すべきことを論じる必要がある⁴⁸。

教会は何よりも教会とならなければならない（スタンリー・ハワーワス）。教会は、何よりも教会にしかできないことに自らを捧げなければならない。それは神の国の性質を反映し、神の民として神の性質を反映して生きることである。そして神のみを神とし（radical monotheism）、それ以外のすべてのものを（日本という国や憲法も含めて）相対化することである⁴⁹。それはこの世における教会の他者性として現れる。

日本においてキリスト教人口が1%しかないことは必ずしも問題とはならない。ユダヤ人人口は世界人口の0.2%、アメリカ人人口の1.8%だが、ノーベル賞受賞者の20%がユダヤ人であるということを思い起こせばよい⁵⁰。彼らの影響力は、良くも悪くも、小さくはない。日本において、キリスト教主義大学は私立大学の10%である。幼稚園から高等学校までも多くのキリスト教学校がある⁵¹。キリスト教の影響を受けた多くの卒業生が生み出されてきている。

キリスト教において絶対的な事柄。それは、神が罪人のわれわれを愛されているということ。神は私たちすべてのものを愛し、憐れまれ、救うと決められ、救い主イエス・キリストを送られたこと。主は、私たちを愛し抜かれ、実に十字架の死に至るまで愛し抜かれ、その私たちによって殺されたこと。その主イエス・キリストを神は死者の中からよみがえらせ、わたしたちに罪のゆるしを与え、救いの道を開かれたこと。神はすべての人が救われ、天の御国へと導かれることを願っておられること。キリスト者は、神を愛し、隣人を愛して生きること。これが絶対的な事柄である。

しかし社会倫理の議論では、その中で、異なる意見が出てくる。真摯なる信仰者、真摯なる人々の言葉に耳を傾け、審かず、真剣に対話することが求められる。

義戦論に立つ人々は、平和のために戦い人が死ぬことを想定している。そしてその数ができるだけ少なくなる道を求める。日本には絶対平和主義を主張する人が多い。そして日本のキリスト教会にはさらに絶対平和主義を主張する人が多い。しかし絶対平和主義を主張するときに、戦争が起これないというわけではない。絶対平和主義とは、自分たちに暴力が使われても、自分たちは暴力を使わないという主張である。「相手が武器を取り、自分たちは殺されるかもしれないが、自分たちは武器を取らない。」それが絶対平和主義である。それは歴史的にキリスト教から始まった崇高な主張である。絶対平和主義とは、単に政府に反対し、デモを行い、声明を出すことではない。義戦論者が戦いで死者が出ることを想定するように、絶対平和主義者は信念に基づいて死者が出ることを想定しなければならない。そして亡くなるのは他の誰かではなく、自分たちである。

5. 平和を作る靈性

満州事変（1931）に際して、H・リチャード・ニーバーは『クリスチャン・センチュリー』誌に「非行動の恵み（The Grace of Doing Nothing）」という論文を寄稿した。性急に軍事行動を起こす前に、神がここでいかに働かれるのかを見るべきであると論じた。『クリスチャン・センチュリー』の編集者が、兄のラインホルド・ニーバーに応答論文を求めた。ラインホルドは、「われわれは何もしてはならないのか？（Must We Do Nothing?）」という論文を書く⁵²。スタンリー・ハワーワスは、主著『平和を可能にする神の国』で彼らの議論を論じている。その中で、靈性の必要を記している。ハワーワスは、より「福音的」であるとしてH・リチャードのアプローチへの共感を示す。しかし暴力の使用を認め「相対的善を達成しようとする希望のもとで、より小さい悪（a lesser evil）を使用する」ラインホルドのキリスト教現実主義者的アプロー

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
チを完全に拒否しているわけではない。（ラインホルドの）現実主義的アプローチには「いっそう特別な霊性の訓練」が必要であると論じている⁵³。

19世紀後半-20世紀初頭の倫理学は、原則を構築しそれをいかに現実の状況に適用させるかということを主に論じてきた⁵⁴。しかしわれわれがどのような人格であるかということが、われわれの倫理的決断に大きな影響を与える。20世紀中盤からは「人格形成」、「共同体」、「物語」が論じられるようになった。人格の大切さは、夫婦喧嘩や友人との争いだけでなく、国家レベルでの外交においても同様である。また「日本の花嫁」事件や、教団紛争においても同様のことがいえたのではないだろうか。彼らは、天の御国の性質に沿って、平和を作り出すような人たちであったのか、あるいは天と異なる性質をもって、争いを生み出す人たちだったのか。

霊性は、キリスト教的平和づくりのために本質的に重要な事柄である⁵⁵。戦争の問題は、非常時の大きな問題であるが、戦争は人類の歴史と共に常にあったことも事実である。戦争に対する態度もまた、教会の生き方の一部である。アメリカの南北戦争では、リンカーンが語ったように、「どちらも同じ聖書を読み、同じ神に祈り、それぞれが相手と戦いながら神の助けを求めて」いた⁵⁶。聖書を読み、祈るだけで神の民として平和を作れるわけではない。平和を作る霊性が必要となる。それは、天において実現している神の御心、神の国に沿った日々の礼拝と祈り、習慣によって培われる。そのような霊性が整えられる必要がある。それは天の御国とつながり、天の性質を反映した人格の形成といってもよい。

6. 「平和『主義』」を超える神の主権と限界状況（Grenzfall）（カール・バルト）

カール・バルトは、絶対平和主義に最も近かった神学者の一人である。そして20世紀で最も優れた神学者の一人である。しかし彼は「和解論」で平和主義を論じ、名指しで批判している。バルトの議論をまとめると以下のような⁵⁷。

バルトは、キリスト者があらゆる場面あらゆる状況で従うべき百科全書的で

静的な決疑論を否定する⁵⁸。それと同時にバルトは、文脈から切り離し、抽象的に様に戦争に反対する「平和主義」も否定するのである。

バルトは「汝殺す（töten）なかれ」（第6戒）は生の抹消の一切を禁じているわけではないという。殺害（Mord）ではない致死行為（Tötung）がある。新約聖書も、絶対平和主義を主張しているわけではないという⁵⁹。

神は、旧約聖書でアブラハムに一人子イサクを献げることを求めた。また死に至らしめなければならないという記述は無数にある。新約聖書でも、ペトロはアナニヤとサッピラを言葉によって死に至らしめている。そのようなことは限界状況（Grenzfall）では起こり得ないわけではないという。

限界状況とは、一般原則の中にある特殊な例外的状況ということではない。致死行為の可能性は、例外的状況で、一定の条件を満たせばいつでも認められる類のものではない。それでは決疑論になってしまう。バルトは、正当防衛も否定している。限界状況とは、神が絶対者として実存的に命じられ得る極めて特殊な状況である。神が、神のみが、究極の限界の状況の中で致死行為を命じられることがないわけではない⁶⁰。これがバルトの主張である。

神は絶対者であり、人が作った「〇〇主義」という枠に収めることはできない。神は絶対的な権威と自由を持っておられる。われわれの視座を遥かに超えるものを、愛と憐れみの眼差しで見ておられる。そして神は正しいわざを成し遂げられる。その中でわれわれの理解を超えることを求められることがないわけではない。「神を神とする」とはそういうことである。これがバルトの神学である。

このバルトの神の絶対性と神への実存的告白的応答の主張は尊重されるべきものである。しかし、自らの告白的応答は他者に強要することはできないものである。

7. 絶対平和主義と平和優先主義

戦後日本の平和主義を考えると、絶対平和主義（pacifism）と平和優先主義（pacificism）の区別をすることは有益である⁶¹。そしてこれらの道を選択す

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために
する場合も、それが相対的な事柄であることを覚えていなければならない。

歴史的に、絶対平和主義はキリスト教から生まれたものである。いついかなる状況でも暴力を用いない。信仰者にはこのような信仰告白的な選択肢がある。しかし世俗国家に、平和優先主義以上のものを期待することはできない。平和優先主義は、できる限り暴力以外の道を求めるが、最後の手段としては暴力の使用も辞さない。レフ・トルストイ（1828-1910）は絶対平和主義者であり、(核兵器廃絶を訴えたラッセル・アインシュタイン宣言 [1955] で知られる) パートランド・ラッセル（1872-1970）は平和優先主義者であった。ラッセルは、ヒトラーは武力を用いてでも絶対に止めなければならないと考えた。

また私的レベルでの平和主義と、公的レベルでの平和主義も区別する必要がある。アウグスティヌスは人を傷つけるようなことはしなかったが、人々を守るために軍隊は戦うべきであると考えた。ガンディーは、公的には平和主義であったが、私的レベルでの暴力は否定していない⁶²。

信仰者の共同体としての教会の社会倫理と、また世俗国家の社会倫理は、同じものにはならない。教会がもし絶対平和主義を主張するとしても、世俗国家に求めることができるのは平和優先主義までである。

結論

キリスト教は、絶対的神の啓示と相対的かつ罪ある文化の中で形成される。教会は、自らが継承してきた絶対的な福音の使信を保持、継承しつつ、永続する問題として相対的な事柄に対応してきた。日本の教会は、絶対的な事柄を相対化し、相対的な事柄を絶対化することがあった。自らの相対的な社会倫理的立場を偶像化し絶対化することなく、他者の伝統を尊重し、悪しき戦争に備え、真摯な対話をする必要がある。

筆者は、本稿で自らの具体的立場を暗示してはいるが、明確に主張してはいない。それは、本稿の目的が、(1) あくまでも絶対的なものを相対化し、相対的なものを絶対化してはならないという基礎的な神学的主張を明確にし、(2) 教会が神の国の民としての天のアイデンティティと性質を大切に、(3) 起こる

かもしれない戦争状況への社会倫理的考察を相対的事柄として議論することを促すことにあるからである。

戦争について、キリスト教会は 2000 年の歴史の中で様々な立場を取ってきた。その中で絶対平和主義は極めて少数派であった。武力を用いてでも人々を守らなければならないという義戦論の立場が多かった。しかしもし絶対平和主義の立場を取るのであれば、義戦論の立場と同様に、血が流れるかもしれないという覚悟が必要である。そしてその血は他者の血ではなく、自分たちの血である。

御心が天で行われるように、地において行われることをすべてのキリスト者は祈る（主の祈り）。神の民は、神が世界とご自身の民に示され、イエス・キリストにおいて最も明確に啓示された絶対的な事柄を何よりも大切なこととして保持して生きなければならない。平和の性質を帯び、平和を作ること。その靈性を保つこと。それが神が神の民に求めておられることである。

教会は、何よりも神の性質を反映し、天の香りを持つ教会とならなければならない。それが、教会が世に対してすることができる最も大きな貢献である。それは教会にしかできない貢献である。しかしそれはとても脆弱で失われやすいものである。教会は歴史の中でそれを何度も失ってきた。

どのような立場を取るにしても、それは慎重に真摯に、神を愛し、隣人を愛しながら、行われなければならない。キリスト教信仰の絶対的事柄を揺るぎなく抱き、相対的な事柄で他者を裁かず、御心が天でなるように地においてなるように祈り、歩むことが求められている。

（ふじわら・あつよし）

（Endnotes）

- 1 本稿は、第 71 回日本基督教会学術大会（2023.9.7., 上智大学）で発表した「キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21 世紀の戦争の時代における日本のキリスト教会のために」を加筆、修正したものである。
- 2 5 世紀に既にローマとコンスタンティノーブルの間での分裂があった。ローマ教皇フェリクス 3 世（2 世）（位 483-492）は、単性論を支持するコンスタンティノーブ

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために

ル総主教アカキオス（位 472-489）が起草したとされる「統一令」（482）を皇帝ゼノンが出し、異端とされた単性論者たちを教会に戻そうとしていた。教皇フェリクスは、これを明確に否定しアカキオスに破門状を送っている（484）。これが最初の東西教会の分裂（アカキオスの分離）であり、35年間続いた（484-519）。

- 3 カトリック教会は、第2バチカン公会議（1965）でエキュメニズム（分裂しているすべての教会の協力関係「一致」を進める思想・運動）の方向を打ち出し、東方正教会との和解の道を求めた。同年、西東両教会から出された「カトリック教会と正教会による共同宣言」によって相互破門は解消された。
- 4 最初の7つの教会公会議の決定はローマ・カトリック教会、東方正教会によって広く受け入れられており、ほとんどのプロテスタント諸教会は少なくとも最初の4つの教会公会議の決定を受け入れている（1. ニカイア公会議, 325；2. コンスタンティノーブル公会議, 381；3. エフェソス公会議, 431；4. カルケドン公会議, 451；5. 第2コンスタンティノーブル公会議, 553；6. 第3コンスタンティノーブル公会議, 680-1；7. 第2ニカイア公会議, 787）。
- 5 たとえば、カトリック教会の反原発的方向性は以下を参照せよ。（カトリック中央協議会）<https://www.cbcj.catholic.jp/category/information/socialissues/hangenpatsu/>
<https://www.cbcj.catholic.jp/japan/statements/hangenpatsu/>
- 6 2023年9月時点で。
- 7 NHKによると2023年6月から以下のように値上げされている。北海道電力 20.1%、東北電力 21.9%、東京電力 15.3%、北陸電力 39.7%、中国電力 26.1%、四国電力 23.0%、沖縄電力 36.3%。
<https://www.nhk.or.jp/shutoken/newsup/20230518c.html>
- 8 「原発再稼働、賛成 51% 震災後初めて賛否が逆転 朝日新聞世論調査」（2023年2月20日 15時36分）。
<https://www.asahi.com/articles/ASR2M7V76R2MUZPS003.html>
福島民報 2023/7/18 「震災・原発事故 12年 全国 16 地方紙共同アンケート」。
<https://www.minpo.jp/news/moredetail/20230301105192>
産経新聞, 2022/10/17 22:13 竹之内秀介 「防衛費増額『賛成』62% 野党支持層も理解 世論調査」。
<https://www.sankei.com/article/20221017-EAXEINERDZM7RDNZ7BX7EN6RFA/>
読売オンライン 2022/12/04 22:01
<https://www.yomiuri.co.jp/election/yoron-chosa/20221204-OYT1T50120/>
「読売新聞の全国世論調査で、今後5年間の防衛費を総額 40 兆円超に増額することの賛否を聞くと、『賛成』が 51%と半数を超え、『反対』の 42%を上回った。」
- 9 “But I must at once make clear that the essence of what I attempt to contribute to-day bearing upon these anxieties and problems cannot be made the theme of a particular manifesto, for the simple reason that at Bonn here, with my students in lectures and courses, I endeavour to carry on theology, and only theology, now as previously, and as if nothing had happened.” Karl Barth. *Theological Existence To-day! (A Plea for Theological Freedom)*, trans. Richard Birch

- Hoyle, (Eugene, OR : Wipf and Stock Publishers, 2011 ; London : Hodder and Stoughton, 1933), p. 9. Cf. H. Richard Niebuhr, "Grace of Doing Nothing," *Christian Century* 49 (1932) pp. 378-80.
- 10 Andrew Dale Rowell, "The History of Interpretation of Karl Barth's Ecclesiology from 1927 to 2015," ThD diss., (Durham, NC : Duke Divinity School, 2016), p. 129. バルトは 1934 年、ヒトラーへの忠誠宣誓書へのサインを拒み、停職処分を受ける。(翌年退職処分。) 1935 年にスイス・バーゼル大学に招聘される。
- 11 Cf. 小林謙一, 「カール・バルトの社会主義」『横浜国立大学人文紀要 23』(1977), 73 頁。
- 12 本稿は、2023 年 9 月の学会発表に基づいている。注 1 を参照せよ。
- 13 Glen H. Stassen, D.M. Yeager, John Howard Yoder, *Authentic Transformation: A New Vision of Christ and Culture*, (Nashville, TN : Abingdon Press, 1995), p. 9.
- 14 H・リチャード・ニーバー, 『キリストと文化』, 赤城泰訳, (日本基督教団出版局, 1970), 25 頁。
- 15 Ibid., pp. 24-5.
- 16 この議論を筆者は以下において行っている。Atsuyoshi Fujiwara, *Theology of Culture in a Japanese Context: A Believers' Church Perspective*, (Eugene, OR : Pickwick Publications, 2012), pp. 13-20.
- 17 Cf. ジェームズ・M・グスタフソン, 「アメリカ史におけるニーバー教会の貢献について」, 竹中正夫訳, 『同志社アメリカ研究』15 (1979) : 1 頁。
- 18 H・リチャード・ニーバー, 『キリストと文化』, 赤城泰訳, (日本基督教団出版局, 1970), 374-387 頁。C&C 終章は編集者からの要望で加えられた。
- 19 H. Richard Niebuhr, *Radical Monotheism & Western Culture, with Supplementary Essays*, (London : Faber & Faber, 1960) .
- 20 フィリピ 2 : 3。
- 21 筆者はこの議論を以下において行っている。Fujiwara, *Theology of Culture*, pp. 149-155.
- 22 マタイ 18 : 15 「きょうだいがあなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところへとがめなさい。言うことを聞き入れたら、きょうだいを得たことになる。16 聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の人の証言によって確定されるようになるためである。17 それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人が徴税人と同様に見なしなさい。18 よく言うておく。あなたがたが地上で結ぶことは、天でも結ばれ、地上で解くことは、天でも解かれる。」(聖書協会共同訳)
- このプロセスを宗教改革者たちやアナバプテストたちは " *Regnum Christi* " (キリストの統治) と呼んだ。
- John H. Yoder, *Royal Priesthood: Essays Ecclesiological and Ecumenical*, ed. Michael G. Cartwright, (Scottsdale, PA, Herald Press, 1998), pp. 323-358. この論文は 1967 年に最初に出版された。
- 23 Yoder, *Royal Priesthood*, pp. 355-6.

キリスト教社会倫理学における絶対性と相対性：21世紀の戦争の時代における日本のキリスト教のために

- 24 Naomi Tamura, *The Japanese Bride*, (the Reader's Digital Edition, Kindle, 2023; New York: Harper & Bros, 1893). 古屋安雄,「歴史的考察」,『日本の神学』(ヨルダン社, 1993), 119-126 頁。
- 25 国立国会図書館デジタルコレクション。
<https://dl.ndl.go.jp/pid/798888/1/1>
- 26 田村直臣,『信仰 50 年史』,近代日本キリスト教名著選集,第 III 期 キリスト教受容史篇(「覚醒社書店,1924」;日本図書センター,2003),208 頁。
- 27 古屋,「歴史的考察」,122 頁。
- 28 Ibid., 125.
- 29 Cf. 年表を参照。鈴木範久,『日本キリスト教史』,(教文館,2018),86-9 頁。
- 30 1960 年代以降の急進的左翼は「新左翼」と呼ばれるが、ここではそれに限定せず広い意味で「左翼」としておく。
- 31 小林貞夫,『日本基督教団 実録 教団紛争史』,(メタ・ブレーン,2011),20-26 頁 教団紛争は,第 35 回教団総会 2006 年 10 月 24 日(ホテルメトロポリタン)まで続いた。
- 32 反万博派の主張は「①万博は大資本の繁栄のおごりである。②ベトナム特需ではないか。つまりアジアからの収奪である。③大阪地域には公害が広がっている。④万博工事で四人もの労働者が死んでいる」であった。しかし彼らは 1990 年の大阪花の万博では(ベトナム特需以外は同じ状況であるにも関わらず)反対をしていない。小林は、反万博派(造反者たち)は「混乱を起こすことが目的」であり、彼らの理論は「いい加減なものであった」という。小林貞夫,『日本基督教団 実録 教団紛争史』,(メタ・ブレーン,2011),32 頁。
- 33 大木英夫,「第 18 回教団総会は何であったか」『形成』No. 49, (1975-1): 4-5 頁。強調は原文のまま。
- 34 小林,『教団紛争史』,53,97 頁。
- 35 “Idolatry is the elevation of a preliminary concern to ultimacy.” Paul Tillich, *Systematic Theology*, vol 1, (Chicago, IL: The Univ. of Chicago Press, Kindle), p. 13 (321/6533).
- 36 北東アジアの有事において、他国が侵略された場合、絶対平和主義のみを唯一のキリスト教的立場として偶像化するか、あるいは、日本が攻撃を受けた場合、十分な学術的議論無く、なし崩し的に武器使用を求めることを筆者は危惧している。
- 37 Roland H. Bainton, *Christian Attitudes toward War and Peace: A Historical Survey and Critical Re-evaluation*, (Wipf and Stock, 2008). 義戦論と十字軍の違いは、宗教的動機があるかないかである。またこの両者は戦いの中で混じり合っていることもある。
- 38 『神の国』第 1 巻は「蛮族のローマ侵入の際、教会が避難所となった。キリスト教徒も災難にあったが、彼らにとってそれは究極の滅びとはならない。暴行を受けたキリスト者の女性が自殺することの可否」である。これは当時のひっ迫した状況への応答である。1-3 巻は 412-3 年に執筆、公表。アウグスティヌス,『神の国・上』金子晴勇他訳,(教文館,2014),p.777.
- 39 Cf. 高瀬弘一郎,『キリシタン時代の研究』,(岩波書店,1977).
- 40 拙著,「浦上四番崩れを通して見るカトリックの伝統の豊かさ:プロテスタントの視

点から」、『キリスト教文化研究所 紀要 37』, (上智大学キリスト教文化研究所 2018), 32-8 頁。ガスバル・コエリョ (Gaspar Coelho) は、前任者カブラルとは異なり親日的であったが、フィリピン諸島長官と修道会に、またイエズス会フィリピン布教長セデーニョに日本への軍事援助の要請をしている。またコエリョ自身、武器弾薬を集めていた。豊田秀吉が博多に滞在中、大砲装備のフスタ船で訪問し、必要ならば九州のキリシタン大名に声を掛け、軍事援助を行うといっている。秀吉の「伴天連追放令 (1587)」はその数日後であり、イエズス会はコエリョの軽率な行動が引き金を引いたと考えた。コエリョは、「追放令」の後もフィリピン総督、司教らに軍事援助を求め、宣教師モーラを派遣している。この試みを論じた高来協議会 (1589) で反対したのは 7 人中イタリア人のオルガンティーノのみであった。コエリョは、カブラルと同じく、日本宣教において軍事力を用いようとしていた。これは日本宣教に限ったことではなく、他国でも行われていたことであった。

- 41 Cf. 武田清子, 『人間観の相克』(弘文堂, 1959), 370 頁。武田清子は、自らが行った「天皇制とキリスト者の意識」アンケート調査をまとめて、「日本のキリスト者の意識 (ことに、天皇制に関する意識という面から見た) は、他のいかなる要素によるよりも国家教育、及び、社会の発展に伴う時代思潮の影響を最も大きく受けて形成されて来たということである」と記している。

- 42 内村鑑三, 『内村鑑三信仰著作全集 18』, (教文館, 1972), 106 頁。

- 43 Cf. “Japanese Public’s Mood Rebounding, Abe Highly Popular : China and South Korea Very Negative Toward Japan.” (Pew Research Center, 2013.7.11).

<http://www.pewglobal.org/2013/07/11/japanese-publics-mood-rebounding-abe-strongly-popular/>

BBC の World Service Poll も参照。“Views of Different Countries’ Influence Average of 2 Tracking Countries, 2011-2012.” 日本は、「世界によい影響」を与えるという観点から上位に位置している。「英 BBC 放送が読売新聞社などと 22 개국で共同実施した世論調査によると、日本が『世界に良い影響を与えている』という評価は 58%で、「悪い影響を与えている」は 21%だった。」Yomiuri Online, 2012.5.11.

- 44 「例えば、空き巣の手口で最も多いのはガラス破りである。防犯フィルムを貼り、貼られていることを示すことで犯罪の防止になる。統計的研究から、戦争を防ぐ対応を知ることも重要である。100 年以上にわたるデータ (1886-1992 年) を元に行われた研究から以下のことが有効であったことがわかっている。同盟関係の構築 (戦争のリスク 40% 減)、他国と比較して軍事力が著しく弱くならないように増強する (同 36% 減)、民主主義度を増す (同 33% 減)、経済的相互依存関係を増す (同 43% 減)、国際組織加入を増す (同 24% 減)。さらに民主主義度・経済的相互依存度・国際組織加入を増すことが重なると戦争のリスクは 71% 下がっている。」拙著, 「大災害の神学」, 『大災害の神学』, (キリスト新聞社, 2022), 130-1 頁。Bruce Russett and John R. Oneal, *Triangulating Peace: Democracy, Interdependence, and International Organizations*, The Norton Series in World Politics, (New York, London : W.W. Norton & Company, 2000), p. 171. 高橋洋一, 『図解 図 25 枚で世界基準の安保論がスッキリわかる本』(すばる舎,

2016), 42-51 頁。

- 45 アシジのフランシスコは第 4 回十字軍と共に行き、スルタンと対話をしている。この時のスルタンからの贈り物がアシジのフランシスコ大聖堂に展示されている。
- 46 独裁国では戦争が起きやすいことはよく知られている。日本の隣国には、核を保有する独裁国が 3 つもあることを意識しておく必要がある。
- 47 マタイ 5:9「平和を造る人々は、幸いであるその人たちは神の子と呼ばれる。」
- 48 2023 年 10 月、イスラエル・ハマス戦争 (2023.10.7-) の中、イスラエル人のユヴァル・ノア・ハラリ教授は、遠く離れている日本にいる者たちにできることは？という問いに対して以下のように答えている。(1) 政治・経済・文化の力を用いて、戦火が更に広がることを防ぐこと、(2) 人道主義的物資を送ること。しかし最も重要かもしれないこととして (3) 「平和のためのスペースを失わないようにすること (to preserve space for peace)」。イスラエルとハマスの激しい戦いの中で今、「イスラエル人の心もパレスチナ人の心も痛みで完全に一杯になっている。このような状況で平和のためのスペースはない。」「だから平和のためのスペースを大切に保っていてほしい。いつの日か私たちもその平和のスペースに生きることができるように。(please take a good care of it [space for peace], so that sometime in the future we can inhabit this space of peace.)」「歴史学者・ハラリ氏緊急インタビュー『イスラエル人もパレスチナ人も「苦痛の海」にいるからこそ』【ユヴァル・ノア・ハラリ】【Yuval Noah Harari】【報ステノーカット】(2023/10/20)。

<https://www.youtube.com/watch?v=eVhGKMmqikY>

戦争が行われている世界に対して日本ができることとして、いつの日か共に生きることができる「平和な空間を保っていること」という指摘は非常に重要なことであると思う。

- 49 日本国憲法の改正についてはキリスト教会では否定的な意見が大勢を占めているように見える。それはそれでよいのだが、日本国憲法は聖書ではない。どの国であっても憲法は人が書いたものであり、神の靈感によるものではない。どの国においても、憲法は状況の変化と必要の変化に応じて修正されている相対的なものである。多くの諸外国が憲法改正を行っているから、日本も憲法改正を行うべきということにはならないが、少なくとも日本がこれらの国々とは異なる特殊な選択をしてきていることは意識しなければならない。

「1945 年の第二次世界大戦終結から 2014 年 3 月に至るまで、アメリカは 6 回、カナダは 1867 年憲法が 17 回、1982 年憲法が 2 回、フランスは 27 回 (新憲法制定を含む。)、ドイツは 59 回、イタリアは 15 回、オーストラリアは 5 回、中国は 9 回 (新憲法制定を含む。)、韓国は 9 回 (新憲法制定を含む。) の憲法改正をそれぞれ行った。」国立国会図書館調査及び立法考査局憲法課 (山岡則雄, 元尾竜一), 「諸外国における戦後の憲法改正【第 4 版】」, 調査と情報—ISSUE BRIEF—NUMBER 824 (2014. 4.24.), 1 頁。

- 50 <https://www.pewresearch.org/religion/2012/12/18/global-religious-landscape-jew/>

- 51 Cf. 齋藤崇徳, 「日本における宗教系大学の比較分析」, 『東京大学大学院教育学研究科

- 紀要』53 (2013): 58 頁。
- 52 H. Richard Niebuhr, "The Grace of Doing Nothing," *Christian Century* 49 (1932), pp. 378–80. Reinhold Niebuhr, "Must We Do Nothing?" *Christian Century* 49, (1932), pp. 415–7.
- 53 スタンリー・ハワーワス,『平和を可能にする神の国』, 東方敬信訳, (新教出版社, 1992), 227–237 頁。"From the argument of this book obviously I think H. Richard Niebuhr's position is the one we Christians must take if we are to live in a manner appropriate to God's kingdom that has been made present in the life of Jesus of Nazareth. Yet to see the issue as choosing H. Richard Niebuhr's position rather than his brother's is a far too simple account of the matter. For I do not think the kind of position represented by H. Richard can be sustained without a spirituality very much like that hinted at by Reinhold." Stanley Hauerwas, *The Peaceable Kingdom*, (Notre Dame, IN: University of Notre Dame Press, Kindle), pp. 229–30.
- 54 ジェームズ・M・グスタフソン,「アメリカ史におけるニーバー兄弟の貢献について」, 竹中正夫訳,『同志社アメリカ研究』15, (1979), 2 頁。
- 55 霊性に類似した事柄として、(宗教を離れて) 一般的には人格ということばが用いられることもある。法的な縛りがあっても、重要な決断をする国家指導者の人格がその政策を左右する。あるいは民度ということばが用いられることもある。外国を旅する時に、その国の民度を感じることがある。経済的繁栄だけでなく、礼儀正しさ、親切さ、寛容さ、清潔さ、秩序正しさ、世界観にそれは現れる。
- 56 Cf. Abraham Lincoln's Second Inaugural Address. Lincoln Memorial, District of Columbia. "Both read the same Bible and pray to the same God and each invokes His aid against the other." 南北戦争中のリンカーン大統領の再選の演説の一節。
<https://www.nps.gov/linc/learn/historyculture/lincoln-second-inaugural.htm>
- 57 バルトとヨーダーの平和主義は以下を参照。Fujiwara, *Theology of Culture*, pp. 110–130.
- 58 決疑論とは、予め定められた抽象的な道徳的原則を、個々の事例に適用することを意味する。
- 59 アウグスティヌスもこの「例外」について論じている。アウグスティヌス,『神の国・上』金子晴勇他訳, (教文館, 2014), 63–4 頁。(第1巻21章)
- 60 バルトは致死行為が成り立つ条件についても論じている。Barth, *CD*, III/4, pp. 422–3. 以下を参照せよ。Fujiwara, *Theology of Culture*, p. 123. "(1) In the case of "life against life." (2) To have "the most scrupulous calculation and yet also a resolute venture with a conscience which is bound and therefore free." (3) To pursue the calculation and venture before God and in responsibility to Him. (4) To have "the conviction that we are dealing with the exception" in faith that "God will forgive the elements of human sin involved." These conditions are not to be understood as casuistry but as a guideline that shows how extraordinary it is for God who respects life to order an act of killing."
- 61 絶対平和主義、平和優先主義、また公的平和主義、私的平和主義についての松元氏の議論は有益である。松元雅和,『平和主義とは何か: 政治哲学で考える戦争と平和』, (中公新書, 2013)。
- 62 マハトマ・カンデー,『わたしの非暴力1』森本達雄訳, (みすず書房, 1997), 5 頁。

【研究ノート】

人はどのような状況で幸福と感じるのか ーテキストマイニングを用いた幸福研究の助走としてー

小 堀 真

1. はじめに

本稿は、人がどのような状況において幸福と感じるのかをテキストマイニング¹の手法を用いて探索的に分析することを目指す。データとして、2010 年に高山市にて実施された日本大学文理学部人文科学研究所共同研究（研究代表者：山本質素）調査データを用いる²。この共同研究は「日本の経済変動と文化・伝統の変容の幸福への影響」を理論と実証の両面から分析することを目的として行われたもので、本調査もその一環として岐阜県高山地域をフィールドに実施された（山本ほか 2012:115）。

岐阜県高山市は日本の多くの地方都市の例に漏れず、高齢化の進む地域である（後述）。他方で高山市は観光資源として白川郷の合掌造りが有名であるように、市の中心部にも重要伝統的建造物群保存地区³や市街地景観保存区域⁴などが存在しており、古い街並・景観が維持されている。その維持にあたっているのは自治体および町内会や景観街並保存会などの組織であるが、そのような組織の基底には伝統的地域集団である「屋台組⁵」というものが存在し、大きな役割を果たしてきたことがわかっている（山本ほか 2011）。また、信仰を持たない人びとの割合が低く、信仰心の高い地域でもあるという特徴をもつ（後述）。以上のように、高山市は高齢化が進む日本の地方都市の一つであり、かつ伝統的な繋がりが強固にみられる地域、そして信仰心の篤い地域でもあるといえる。

今回の分析では、このような特徴を持つ地域において「人々が幸福と感じる

状況とは何か」、いうなれば幸福「観」に着目をし、その要因にはどのようなものが考えられるのかを素描する。

2. 先行研究

(1) 実証研究における「幸福」の定義

本稿では「幸福」とは何か、について哲学的な議論は行わないが、最低限の定義は示しておきたい。ここでは幸福感の実証研究の第一人者である Veenhoven の類型を援用したい (Veenhoven 2000)。彼は Quality of life を Life chance と Life results、そして Inner quality と Outer quality の四象限から類型化し、そのうちの Inner quality かつ Life results に当たるものがいわゆる「Subjective well-being」「Life-satisfaction」そして「Happiness」という言葉で言い表せられるものであるとしている⁶。つまり、Quality of life の中でも様々な状況の結果として去来する人々の内的・心理的な状態が「幸福(感)」であるとする。本稿でも幸福の定義は原則としてこちらに従うものとする。

幸福感の規定要因はこれまでさまざまに検証されているが、例えば Layard (2005) は、幸福感の主な規定要因として強い順に「家族関係」「家計」「雇用」「コミュニティと友人」「健康」「自由」「価値観」をあげており、これらを幸福感の規定要因の「ビッグ・セブン」としている。また、幸福感を測る尺度としては「幸福度」以外にも「生活満足度」があり、Layard によれば両者には違いはないとしているが、袖川・田邊 (2007) によれば、インターネット全国調査で得られたデータを分析した結果、両者は異なる概念を測定しているとし、特に幸福感には「将来への期待」が含まれると結論づけている。また、小林らも西東京市のデータを用いた分析の結果、「人びとが…長期的ウェル・ビーイングとして幸福感を、…短期的ウェル・ビーイングとして満足度をえている」と結論づけている (小林ほか 2015:96)。石田はインターネット全国調査によって得られたデータから幸福感について分析を行い、「「幸福」は家族関係や健康といった生活領域に関連して、「不幸」は経済的領域に関連して語られる傾向にある」ことを指摘している (石田 2009:247)。田中・布施は病院に勤務す

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—
る看護師を対象に、職務に対する幸福感に影響を及ぼす要因について調査し、
職務から幸福を得られている看護師は「家族や患者との社会的な人間関係を築
きながら就業継続のモチベーションを高めて」いると報告している（田中・布
施 2022）。また、他方で価値意識のあり方の違いが幸福感・生活満足度に影響
を与えているという指摘もある⁷（Diener and Diener 1995；Kitayama, S. et al
2000、ほか）。あるいは見田は世界価値観調査の結果を元に、特に若年層にお
いて幸福感が高まっていること、またその幸福のあり方は「貨幣経済に依存し
ない幸福の領域の拡大」（見田 2018：90）という形をとっているのではないかと
している。

以上のように、幸福感の規定要因だけでなくその尺度も含めて多様な議論が
展開されている。本稿では幸福感の規定要因を探るというよりも、人が幸福を
感じる状況としてどのようなイメージを持っているのか、どのような文脈でそ
れを感じるのかを析出することを目的としている。いわば幸福「感」ではなく
幸福のあり方＝幸福「観」を明らかにしようとするものであり、その意味では
見田と共通した問題意識のもとで分析を行おうとするものである。ただし、見
田は自身で分析を行なっておらずあくまでも分析結果の解釈にとどまる。その
意味でも本稿の分析は幸福「観」を明らかにするための実証的なアプローチと
して必要なステップであると考ええる。

(2) 「幸福」の尋ね方

ここでは、日本国内で実施された「幸福」をテーマとした分析かつテキスト
マイニングの手法を用いたものに絞り、それぞれの調査によってどのように幸
福について問うているのかを確認していく。

まず石田が分析した質問項目では、幸福について以下のように尋ねている
（石田 2009：241-242）。

問7 全体的に言って、あなたは今どの程度幸福だとお感じですか

問8 なぜそのようにお答えになりましたか。ささいなことでも結構です

ので、理由を自由にお書きください

石田によれば、問8の回答をテキストマイニングによって分析することで「幸福についての語り」が明らかになるとしている（石田 2009：242）。なお、この質問項目では「幸福とは何か」を問題としてはいない。つまり、幸福とは何か、何を持って幸福といえるのか、は各々の回答者に委ねられている。言い換えれば、「幸福」自体がなんであれ、それを自身にもたらし「要因・状況」を尋ねているといえる。また、この尋ね方では、現状が幸福であると感じている場合のその理由を尋ねている。

小林・ホメリヒは、2014年の西東京市の地域調査で幸福について以下のよう
に尋ねている（小林・ホメリヒ 2018）。

あなたにとって「幸せ」とは、一言でいうとなんですか

幸せとは・・・

この場合、石田が分析に用いたデータセットでの質問項目とは異なり、幸せそのものの定義、幸せとは何か、を尋ねるものとしても解釈できる。実際の回答を確認すると、例えば「思いやり」「相互理解」「愛情」「充実感」「日常生活」「健康で食事がおいしい事」などといったものが挙げられており、やはり具体的な状況ではなくより一般的な「私にとっての幸せとは」という回答になっている。

田中・布施の場合は質問紙調査ではなくインタビューにて幸福について尋ねている。具体的には「現在の仕事に対してどのような時に幸福または不幸を感じるか」を問うことで回答を得ている。この調査の場合、回答は「幸福な状況やその要因」に方向付けられていると考えてよいであろう。

最後に今回分析を行なった山本らの調査での質問項目を確認する（山本ほか 2012）。ここでは以下のように尋ねている。

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

あなたは、どのようなときに「幸せ」を感じますか。どのようなことでも結構ですので、具体的な状態や行動などお答えください。（例：仕事をしているとき、家族と過ごしているとき、など）

この質問文は、石田や田中・布施の場合と同じく幸せである要因や状況を尋ねるものとなっている。特徴的なのは質問文の最後に回答例が明記されていることからわかるように、幸せな状況・行動を答えるように指示している点である。これによって自由回答項目の内容にある程度同じ方向性を持たせるようにしている。ただし、石田と大きく異なるのは「現時点で幸せかどうか」は問うておらず、自身が幸せと感じるときはどのような状況で「あったのか（過去の事実）」、「あるのか（現時点の事実）」、「あってほしいのか（願望）」は明確ではない。あくまでも自身が幸せと感じる状況がどのようなものなのかを尋ねている⁸。そのため、この回答者は必ずしも現時点で幸福であると感じているとは限らない。

以上の調査のワーディングなどをまとめたのが表1である。

このように、同じく幸福についての自由回答といっても調査ごとに問うているものが微妙に異なったり、ニュアンスの違いがあったりすることについては留意しておくべきだろう。それは無論分析結果の解釈に影響するからである。今回は小林・ホメリヒの分析結果を他の調査と比較するときにより注意が必要であることがわかる。また、石田、田中・布施、山本らの調査結果は小林・ホメリヒと比べると比較的近いニュアンスでの質問であるが、こちらもそれぞれワーディングや調査モードなどが異なっていること、田中・布施では半構造化インタビュー⁹で実施されていることや、調査の目的や分野が他の調査とは異なることに留意する必要があるだろう。

表1 「幸福感」の尋ね方の違い

調査名（実施者）	質問文（内容）	調査方法	得られると想定される回答
石田	なぜそのようにお答えになりましたか。ささいなことでも結構ですので、理由を自由にお書きください <small>注：この前の質問で「全体的に言って、あなたは今日の程度幸福だと感じますか」と尋ねた上での質問文</small>	自記式	幸福の要因や状況
小林・ホメリヒ	あなたにとって「幸せ」とは、一言でいうとなんですか 幸せとは・・・	自記式	幸福とは何か、幸福の定義、幸福な状況
田中・布施	現在の仕事に対してどのような時に幸福または不幸を感じるか	他記式 (インタビュー)	幸福の要因や状況
山本ほか	あなたは、どのようなときに「幸せ」を感じますか。どのようなことでも結構ですので、具体的な状態や行動などお答えください。（例：仕事をしているとき、家族と過ごしているとき、など）	自記式	幸福なとき、状況

3. 方法

(1) 調査の概要

今回の分析で使用した調査データの概要は表2のとおりである。調査地域は2005年の合併前の旧高山市を対象としている¹⁰。また、調査対象者は20歳以上の男女とし、年齢の上限は設けていない¹¹。この調査では、調査モードとして郵送法を採用したが、50%近くの回収率を達成しており、比較的回収率が低いとされる同モードにおいては良好な結果であった。なお、データとしては2010年と若干時間を経ているが、自由回答項目を用いた幸福感を尋ねているという点で貴重なデータである。

なお、今回の旧高山市データの傾向については全国データとの比較を通じて小堀が詳細に検討している（山本ほか2012）。具体的には、2005年に実施された「第6回社会階層と社会移動全国調査¹²」、2007年実施の「価値観と生活意識に関する調査」の日本データ¹³、そして2005年実施の「第5回世界価値観調査¹⁴」と比較している。まずこれらの全国データと比較して明らかなのは、「人

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

表 2 調査の概要

調査地域	岐阜県旧高山市（2005 年の合併前の地域）
調査実施年	2010 年 11 月
調査対象	20 歳以上の男女
調査モード	郵送法
サンプリング法	層化二段抽出（25 の投票区ごとにランダムサンプリング）
サンプル数	1535
回収率	47.9%
調査主体	日本大学文理学部人文科学研究所共同研究「日本の経済変動と文化・ 伝統の変容の幸福への影響」（研究代表者：山本質素）

口構成における高齢者の割合が高い」ことである¹⁵。実際に高山市は少子高齢化の傾向があるが、これは今回の調査データにおいて特に顕著で、高山市が公表しているデータと比較してもかなり高齢者層が多く、若年層が少ない傾向がある¹⁶。また、冒頭で述べた通り屋台組を基盤とした集団が現在も古い街並を維持する上での基盤となっており、このことは全国データと比較しても社会参加率が高いという結果から窺い知ることができる（山本ほか 2012:115）。また、信仰を持たないと回答した層が 2007 年宗教調査と比べて顕著に低い¹⁷（山本ほか 2012:156）などといった傾向がみられる。なお、他の調査項目では全国データとの乖離はさほど大きくはないことを確認している（山本ほか 2012）。

なお、今回の分析対象の質問項目については前述のとおりである。

(2) データクリーニング

ここでは分析に際してのデータの前処理について紹介する。分析対象の変数（今回の場合は自由回答項目の回答内容）をどのように加工したのか、手続きの透明性を担保するため以下処理の手続きについて詳述する。

表3 誤字脱字修正・表記の揺れの統一

問 17 回答	
1	家族と旅行など一緒に行動（行事）できる時。 家族と旅行など一緒に行動（行事）できるとき。
2	夕夕のむ 酒をのむ 主人と子供たちと一緒に旅行に行ったとき。自分の行動や言葉で相手（友人や家族）が喜んでくれたとき。「あなたが居てくよよかった、あなたに会えてよかった」と言ってもらったとき。 主人と子供たちと一緒に旅行に行ったとき。自分の行動や言葉で相手（友人や家族）が喜んでくれたとき。「あなたが居てくよよかった、あなたに会えてよかった」と言ってもらったとき。
3	子供の生長 子供の成長 家族そろって食指が出来る時。 家族そろって食事が出るとき。
4	家族と中食く暮らしているから 家族と仲食く暮らしているから
5	健康なので今日一日を感謝して家事に専念していて毎日が充実しているので幸せだ一な一と思って生活しています 健康なので今日一日を感謝して家事に専念していて毎日が充実しているので幸せだ一と思って生活しています
6	人と（数人）二生に酒で語るとき 人と（数人）一續に酒で語るとき
7	趣味のパン作りをして家族で、出き立てを食べる瞬間！！ 趣味のパン作りをして家族で、できたてを食べる瞬間！！
8	私、花壇作り、夏草とり土イザリ。何も考えず夢中（特に日本ラン洋ラン）蓋金ですので程々に花をつけると嬉しい限り。娘り難らも忘れてしまいます。 私、花壇作り、夏草とり土いじり。何も考えず夢中（特に日本ラン洋ラン）蓋金ですので程々に花をつけると嬉しい限り。娘り難らも忘れてしまいます。
9	家族・有だら 家族・友達
10	商売をしてお客様と接している時 商売をしてお客様と接しているとき
11	私はあみものが好きで、いろいろ作って上げてよろこんで下さる(の)がうれしい 私はあみものが好きで、いろいろ作って上げてよろこんで下さる(の)がうれしい
12	息子夫婦とまご達、一緒に暮らしているのでしやわせです 息子夫婦と孫達、一緒に暮らしているのでしあわせです
13	家族そろって、たわいもない事で笑ったり、話しをしている時子供が一諸懸命スポーツしている時 家族そろって、たわいもない事で笑ったり、話しをしているとき子供が一生命スポーツしているとき

注：各文に対し、上が修正前、下が修正後のものである。修正した語句に下線を引いて示している。

i. 誤字脱字の修正

テキストマイニングを行う前に、自由回答の内容を確認し、データクリーニングを行わなければならない。回答者によっては質問の趣旨とは全く異なる回答をしている場合や、誤字脱字の見られる場合があるからである。今回修正した誤字脱字は表3に示したとおりである。

ii. 表記の揺れの統一

次に、回答文における表記の揺れの統一を行った。具体的には表3にもあるように、「～しているとき」を「～している時」と記入したり、「幸せ」を「しあわせ」と記入したりといった表記の揺れがみられるので、それらを全ていずれかに統一する処理を行った。

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

表 4 分析対象の語

独立して抽出する語	分析から除外する語
とき	とき
毎日	毎日
	幸せ
	感じる

iii. 分析対象の語の取捨選択

形態素解析¹⁸の際に抽出される品詞のうち、複数の品詞として抽出される単語として「毎日」があった¹⁹。今回は「毎日」という単語自体は分析から外しても問題ないと判断した²⁰ため、分析からは除外している。他にも分析時に複合語としてではなく独立に抽出する語や、分析から除外する語を指定している²¹が、それは表4に示した通りである。

4. 結果

前述の通り、今回の分析ではテキストデータを探索的に解析し、大まかな全体構造や、関連する可能性のある外部変数との関係を把握することを主眼としている。具体的には以下の分析を行った。

1. 自己組織化マップ²²の作成をすることにより、回答にどのような語がみられたのか、また語同士の配置された位置の距離から、どの言葉同士が近い文脈で使用されたのか、語の全体像を確認する。
2. いくつかの外部変数を投入した共起ネットワーク分析を行い、因子によって幸福な状況はどのような違いを見せるのかを確認する。

今回の分析の目的はあくまでも探索的なものであり、分析対象のデータの構造を把握することに主眼がある。そのため明確な仮説を設定した上での分析・考察は行わないが、先行研究で幸福感に効果があるとされているような変数や基本的な社会経済的地位²³との関連を中心に確認を行っていく。

(1) 自己組織化マップ

— 40 —

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

表5 外部変数一覧

変数名	カテゴリ値
性別	男性、女性
年齢	20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上
学歴	中学、高校等（高校高専・短大）、大学等（大学・大学院）
雇用形態	正規、非正規、無職
世帯年収	低（～300万未満）、中（300万～800万未満）、高（800万～）
信仰形態	信仰の有無×参加頻度（信仰なし、信仰あり×参加頻度低、信仰あり×参加頻度高）

られていると考えられる。比較的わかりやすいクラスターとして、最下段中央のグループをみると、「友達」「会話」「知人」「笑顔」「楽しい」などがここに含まれている。場面として「家族以外の人間と何らかの交流を持っている」ところがイメージできる。あるいは最上段中央の場合は「行く」「旅行」「行動」「外食」などが含まれており、「外出先で何かをしている」状況がイメージできるだろう。このように、幸福を感じるシチュエーションがクラスターとして析出されていると解釈できる。

(2) 共起ネットワーク分析

ここから、幸福感と何らかの関係があると思われる変数との関係を探索的にみていく。ここで用いる共起ネットワーク分析とは、「データ中でよく一緒に使用される概念を線で結んでネットワークを描く方法」(樋口 2020:11)であり、多次元尺度構成法(MDS)やクラスター分析と似た手法であるが、これらよりも比較的分析結果の解釈が行いやすいという特徴がある。この分析手法を用い、今回は以下の外部変数との関連を確認する。それぞれ分析にあたっての変数の簡単な説明と、変数の加工については表5に示したとおりである。

また、今回の分析では以下の調整を行っている。いずれも分析結果を比較的单純なものにすることによって解釈を行いやすくする目的で行っている。

1) 強い共起関係のみの描画

共起関係が弱い語までも線(edge)で結ばれると、結果の解釈が難しくなっ

てくる。そのため今回はそのような共起関係は省き、ある程度の強さをもつ関係のみを描画するように設定している²⁴。

2) 固有名詞などの分析からの除外

今回の分析では固有名詞・組織名・人名は分析からは除外した。あくまでも一般的な語同士の関係を析出したいという目的のためである。

なお、分析結果の読み取り方としては、四角で囲われた語が外部変数、丸で囲われた語が自由回答項目に現れた語である。また、丸の語はそれが大きいほど頻出した語であることを示す（Frequency）が、その空間的配置については特に意味はない。また、共起関係が強い＝係数（Coefficient）が高いほど線が太く描写されている。

i. 性別

性別ごとの幸福と感ずる状況の共起ネットワーク分析の結果が図2である²⁵。男性・女性共に「家族」が幸福を感ずる状況の中心にある。女性の方から分析結果を確認していくと、比較的頻出する言葉として「健康」「子供」「孫」「友達」などの語が確認できるが、特に興味深いのは具体的な人物を挙げていることである。また、その具体的な人物もバラエティに富んでおり、幸せな状況とは決して家族といるときだけでなく、趣味の活動をしているときや、友人と出かけたりするときなど、様々なバリエーションを持っていることがわかる。さらにいえば、「夫」に言及する人は少なく、幸せな状況を思い浮かべる際に夫という要素はあまり重視されていない。またそれ以外では「一緒」「仲良く」「楽しい」など、具体的な状態にも言及されており、ただ単にあるシチュエーションにあればよいというわけではなく、それがどのような雰囲気であるのかが重視されている。他方男性の分析結果をみると、頻出する語は「過ごす」「仕事」「食事」などである。女性と比較するとあまり具体的な人物に言及することはなく、「夫婦」「全員」など少し漠然とした語にとどまっていることが目をひく。特に「友達」という語はこの分析では出てこず、仕事と家族以外での人間関係の薄さを示唆する結果となっている。

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

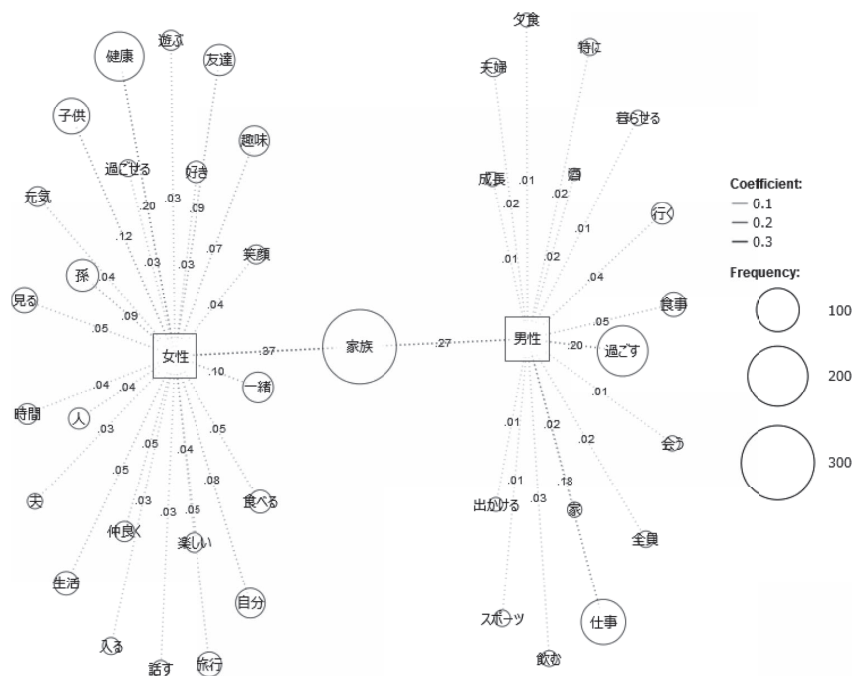


図 2 性別ごとの幸福とを感じる状況

ii. 世代

世代ごとの幸福とを感じる状況の共起ネットワーク分析の結果が図3である²⁶。中心にくるのは「家族」で、多くの世代で言及されていることがわかる。特に「家族」を中心にしてすぐまわりに「30代」「40代」「50代」「60代」が配置されており、これらとの共起関係が強いことがわかるが、これらは子供を持つ家庭が多い世代である。他方で「20代」「70代」「80代」では、幸せとを感じる状況として「家族」に言及することは相対的に少ないことがわかる。おそらくこれらの世代では独身、あるいは死別などで独居している割合が比較的高いと思われる。また、世代を追うように共起関係にある語をみていくと、それぞれの世代でのライフステージをなぞっていることが理解できる。つまり、20代では友人関係を中心にした生活や場面が想起されるが、30代に入り、家庭

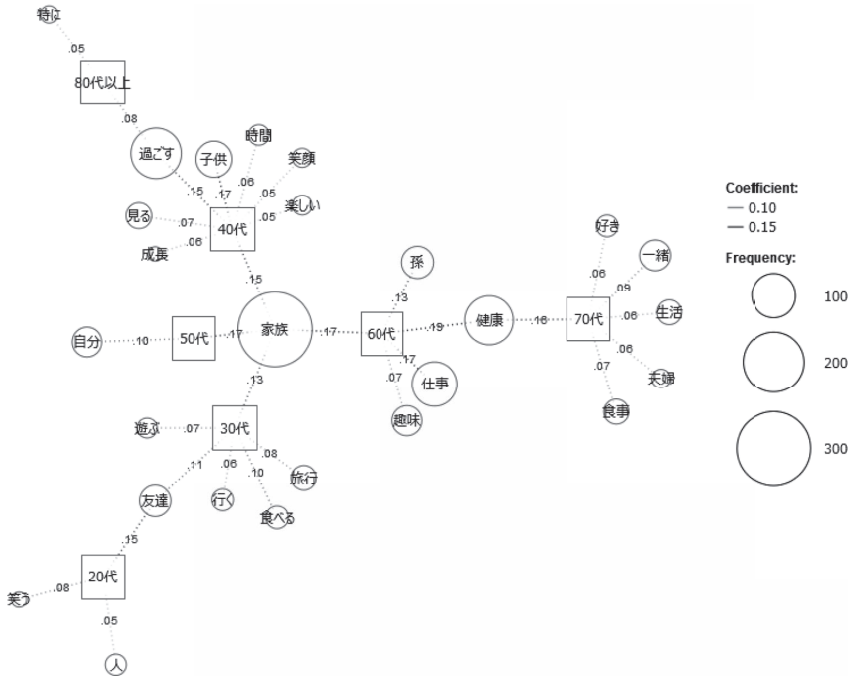


図3 世代ごとの幸福と感ずる状況

を持つようになることで家族との時間が生活の中心となっていく。続いて40代に入り子供と共に、その成長を感じながらの生活を、そして50代・60代になり自身の健康であること、自身のしてきた仕事や趣味などから感じる生きがいなどが幸せを感じる状況として前景化してくる。そして70代・80代では1人で、あるいは配偶者と穏やかに余生を過ごすというところであろうか。

iii. 学歴

学歴3分類ごとの幸福と感ずる状況の共起ネットワーク分析の結果が図4である²⁷。こちらでもいずれの層でも強い関連がみられたのは「家族」である。学歴別に見ていくと、「中学」では「健康」「仕事」「孫」がよく言及されている。このことから、中学校卒業の層には多くの高齢者層が含まれていることがわか

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

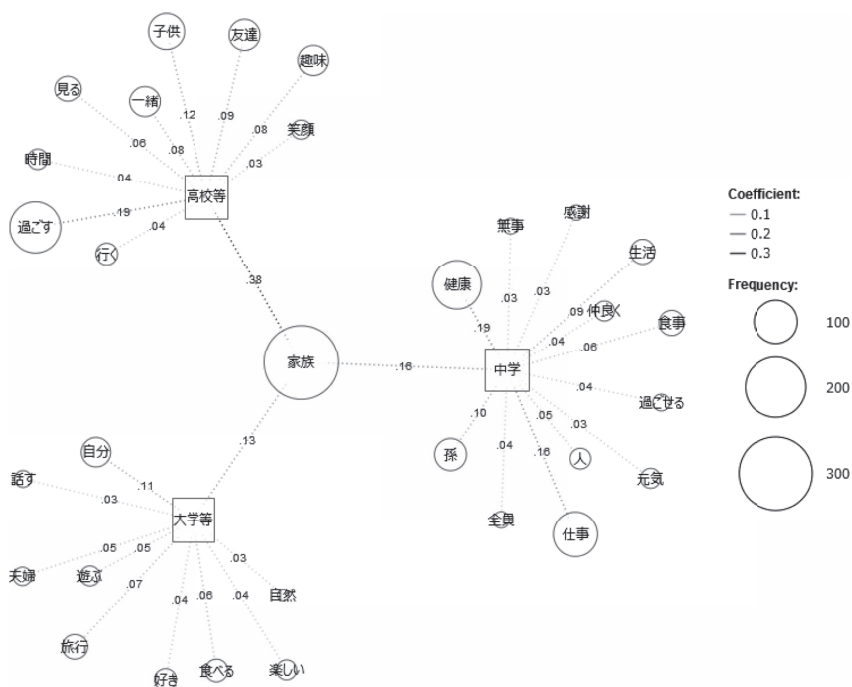


図4 学歴3分類ごとの幸福とを感じる状況

る。他に関連のある語をみると、「仲良く」「生活」「元気」など、日々の日常の中で自身や関係のある人々が無事に暮らせていることに幸せを見出していることがわかる。次に「高校」では「子供」「友達」「一緒」などの語がみられるようになっている。おそらく子育てをしている30～50代あたりが中心となっている層であることが示唆されるが、「趣味」という語からもわかるように、家庭や家族から離れた関係や状況で幸福感を得てもいるようである。最後に「大学等」では、「自分」「旅行」「食べる」「楽しい」などの語との関連が見られる。おそらく若年層が比較的多く含まれると思われるが、自身が何らかの行為・イベントなどに参加したり行ったりしたときに幸福感を得ているようである。

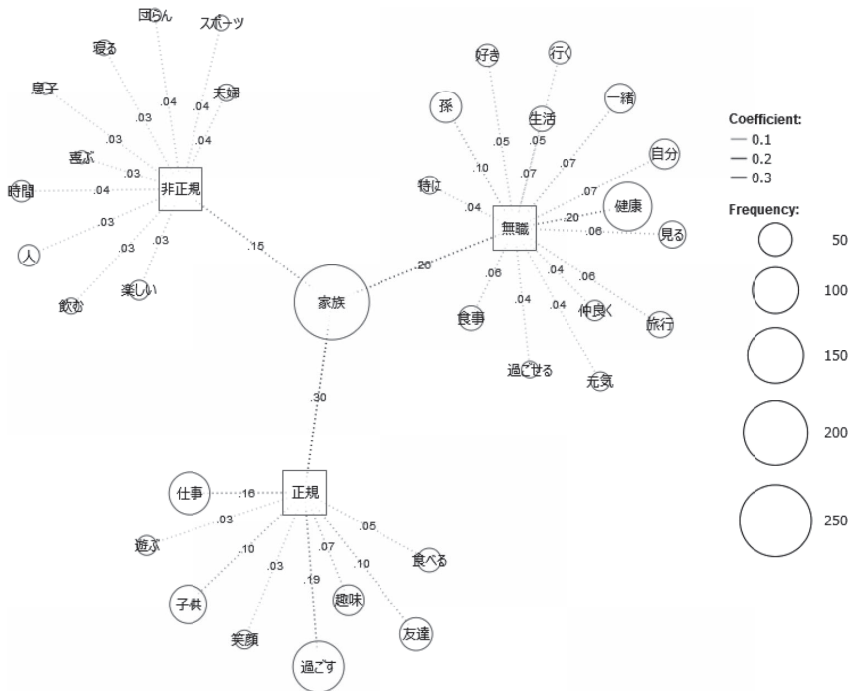


図5 雇用形態ごとの幸福と感ずる状況

iv. 雇用形態

雇用形態ごとの幸福と感ずる状況の共起ネットワーク分析の結果が図5である²⁸。家族はいずれの層においても関連がみられる。雇用形態ごとに確認していくと、まず正規雇用の層はやはり多くの時間を割いているであろう「仕事」がよく出てくる傾向がみられる。他には「子供」「趣味」「友達」「過ぐす」などといった語が多く、フルタイムの就業形態から来るとされる比較的安定した経済状況に基づいた場面が想起される。非正規の層では「仕事」という語は出てきておらず、幸せと感ずる状況が仕事の場面であることはあまりないようである。また、正規雇用の層と比べて交友関係の広さを感じさせる語は若干少ない。無職の層では「健康」が一番多く言及されている。これは、「孫」とい

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

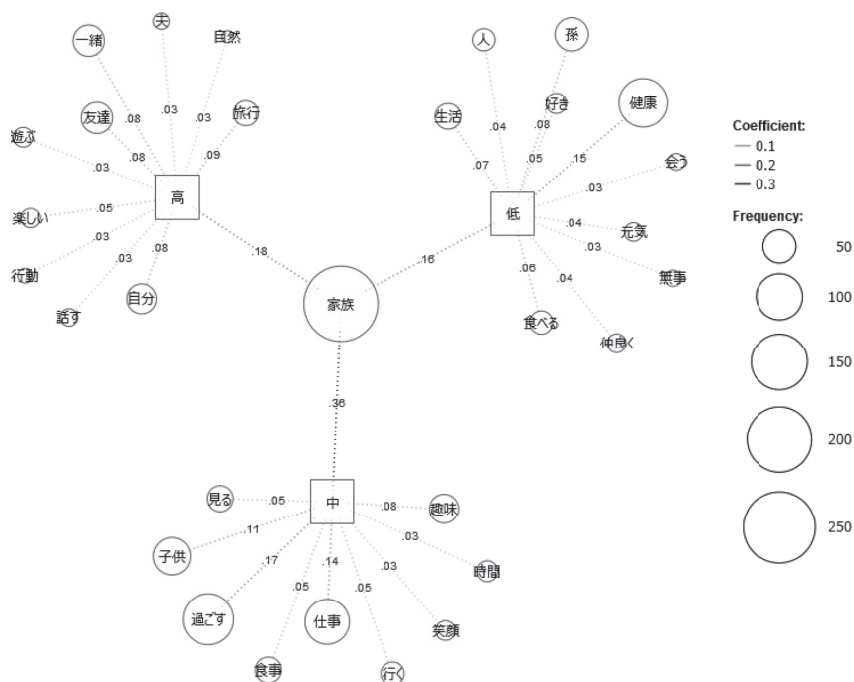


図 6 世帯年収 3 分類ごとの幸福を感じる状況

う語からもわかるように退職後の高齢者層が多いことが影響していると考えられる。幸せであることを感じる状況としてやはり自身の健康が担保されていることが重要になってきていることがうかがえる。

v. 世帯収入

世帯年収 3 分類ごとの幸福を感じる状況の共起ネットワーク分析の結果が図 6 である²⁹。まずいずれの層においても関連が見られたのは「家族」であり、どのような経済状態においても「家族」が幸福な状況の中心にあることがわかる。低所得層では、「健康」や「孫」との関連が比較的良好にみられることから、こちらの層では高齢者が多いことがわかる。そのほかの語をみると、身の回りの生活・日常生活の中での人間関係や出来事が挙げられている。続いて中所得層

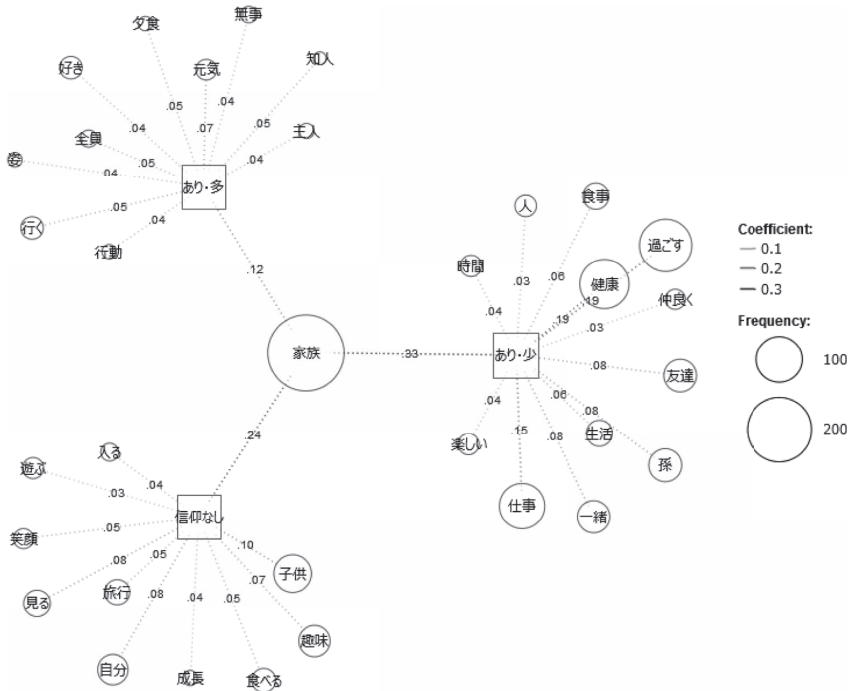


図7 信仰形態3分類ごとの幸福と感ずる状況

をみると、「仕事」「子供」という語がみられることから、まだ子供が独立していない子育て層が中心になっていることがわかる。高所得層では、「友達」「自分」「旅行」「一緒に」などの語との関連がみられ、経済的な豊かさを感じさせる行動やイベントを行なっていることがわかる。

vi. 信仰形態

信仰形態3分類ごとの幸福と感ずる状況の共起ネットワーク分析の結果が図7である³⁰。こちらでもやはり家族が最も言及される語である。信仰を持たない層では、「子供」や「自分」「趣味」「旅行」などがみられる。おそらくは若年層になるほど信仰心が低いため、このような傾向がみられるのではないかと考

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—
えられる。信仰を持つが、宗教的な活動の頻度が低い層では「健康」「過ごす」「仕事」「孫」といった語がよくみられる。比較的高齢層が答えていることがわかるが、信仰を持たない層との共通点としては出てくる語が比較的・日常的であることだろう。これらに比べ、信仰を持ち、かつ宗教的な活動の頻度が高い層は若干傾向が異なり、関連のある語として身近な人物が出てくる頻度が低い。興味深いのは「全員」という語である。個別具体的な「誰か」ではなく、不特定多数の「全員」という語を用いている点は興味深い。

5. 考察

今回幸福な状況について尋ねた自由回答項目を中心に、主な SES 変数との関連を探索的に分析・確認してきた。その結果として得られた主な知見として以下のようなものが挙げられる。

(1) 家族の存在感

今回の分析では、家族が幸福感に強い関係を持っていることが顕著に現れていた。これはすでに先行研究でも指摘されていることであるが(石田 2009; 小林 2016; 小林・ホメリヒ 2018)、高山のデータにおいてもやはり同様の結果がみられた。前提として家族関係が良好であることはいうまでもないが、人々の生活や人生において最も身近な存在である家族との関わりの中でこそ幸福感が最も醸成されることが確認できた。ただし、今回の分析からは家族といってもどの「家族」を指しているのか、つまり自身が生まれ落ちた家族である「定位家族」を指しているのか、あるいは自身が主に婚姻関係によって形成した「生殖家族」を指しているのかは明確ではない。おそらく多くが「定位家族」に属しているであろう 20 代の人自身は自身の両親や「きょうだい」を思い浮かべるであろうし、自身の「生殖家族」を形成している世代、つまり 30 代～50 代あたりは自身の配偶者や子どもを思い浮かべながら回答している人が多いであろう。あるいは自身の子もたちが独立した層が多いと考えられる 60 代以上の世代は、配偶者や独立した子ども、孫などを想起したであろうと思われる。さ

らに付言すると、自身が「家族」とみなす範囲も姻族を含めた親族なのか、それ以上なのかということも今回の分析では明確ではない。

(2) 性差による違い

今回の分析からは、性差もかなり大きな要因となることが示唆される結果となった。一番の違いは、女性における「幸せな状況」のバリエーションの豊かさと、それとは対照的な男性におけるそのバリエーションの少なさであろう。これは主に女性の持つネットワークの豊かさが主たる要因であろうことが想像できる。女性は仕事や家庭以外においても様々な人間関係を構築しており、それがために様々な場面で様々な幸せな時間を持つことができていると考えられる。他方男性の場合はどうしても生活の場面が家庭と仕事に限定されやすいのではないだろうか。男性の共起ネットワーク分析の結果に「夫婦」以外の具体的な他者が出てこなかったのは象徴的であるといえる。

(3) SES の効果

世帯収入や就労状況、学歴との関連を確認すると、無職であったり、低所得層であったりすると「健康」であることが大きな関心事であり、正規雇用であったり高所得層であったりすると「旅行」や「趣味」「遊ぶ」といった語が出てくるという傾向はみられたが、今回の分析は他の変数の影響を考慮した上での分析ではない。つまり、無職・低所得層・低学歴層は定年退職をした高齢層が多く含まれ、正規・高所得層・高学歴層は若年・中年・壮年に当たる世代が多く含まれていることは、分析結果からも容易に理解できる。そのためここから何らかの知見（例えばマズローの欲求段階説との関連のような）を引き出すのはまだ早いように思う。さらなる詳細な分析が必要であろう。

(4) 世俗的なこと・ものへの関心

何を持って世俗的とみなすかにもよるが、旅行や趣味の活動、グルメを楽しむなどといった一般的な余暇活動を世俗的な行為・行動と考えるならば、概ね

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—
高所得者層や正規雇用のような、経済的基盤が安定している層は、「幸せな状況」と尋ねられたときにそのような行為・行動を挙げる傾向がある。また、若年層もそのような傾向がみられるが、これは婚姻前で自身の収入や時間を自身のことのみに費やしやす時期であることも関係していると考えられる。また、信仰がない層もこのような傾向がみられるが、これは「信仰なし」と回答する層が若年層に多いこともあるため、今回の分析からは信仰の熱心さが世俗的なこと・ものへの関心に影響があると断定することはできない。

6. まとめ

これまで旧高山市のデータを用いて人々が「幸福な状況」、つまり幸福「観」を問われたときどのような語りをするのかを、テキストマイニングの手法を用いて分析を行ってきた。今回の分析でまず明確になったのは、先行研究と同様にほぼ全ての世代において「家族」が言及されているということであろう。この結果自体は予想通りといえるが、東京のような都市部においても、そして高山市という、高齢化の進む地方都市であってもやはり我々の幸福追求の場面で家族の重要性が際立つ結果となった。そして今回の分析で特に興味深いのは、男性の幸福を感じる状況の場面の乏しさである。石田は孤立しやすい人々の背景要因を分析する中で、高齢男性が孤立しやすいこと、そこにはジェンダー的な問題があるのではないかと指摘しているが（石田 2007：77）、今回の分析はそれと呼応する結果となった。また、まだ断定できないが個々のSESも幸福の感じ方に大きな効果を持つことを示唆する分析結果となった。やはり幸福を考える上で社会的・経済的な状況は無視することはできないのであろう。他方で、今回はSESのような個人の周囲に存在する客観的状況とは異なり、個人の、ある心的・主観的な状況を示す「信仰」という変数がどのように振る舞うのかも確認したが、今回の分析からは明確な知見は得られなかった。ただし、信仰が幸福の感じ方に全く影響を持たないともいえず、さらに詳細な分析が必要である。また、今回の分析結果はあくまでも旧高山市において妥当する結果であって、日本全体においても同様の結果が出るとは限らない。今後の比較検

討が必要である。

今後の分析としては、自由回答項目のコーディングのさらなる検討、また変数をコントロールした上での要因分析や、生活満足度と幸福の関連の分析などを進める予定である。

謝辞

本稿は、日本大学文理学部人文科学研究共同研究「社会経済変動と文化・伝統の変容の幸福への影響に関する学際的研究（研究代表者：山本質素）」で得られたデータを利用して分析したものである。ここに謝意を表する。

文献

- 石田淳 (2009) 「人はどのような言葉で幸福を語るのか—幸福理由のテキスト・マイニング」『関西学院大学社会学部紀要』(107)、241-248 頁。
- 石田光規 (2007) 「誰にも頼れない人たち—JGSS から見る孤立者の背景」『家計経済研究』(73)、71-79 頁。
- 小林盾 (2016) 「豊かな生き方、豊かな社会を考える 幸福格差社会か幸福平等社会か：社会学における幸福感研究」『TASC monthly』(492)、13-18 頁。
- 小林盾・ホメリヒカローラ (2018) 「どのような言葉が人を幸せにするのか—自由回答のテキスト・マイニング分析を用いた混合研究法アプローチ」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』(第4号)、31-47 頁。
- 小林盾・ホメリヒカローラ・見田朱子 (2015) 「なぜ幸福と満足は一致しないのか—社会意識への合理的選択アプローチ」『成蹊大学文学部紀要』(50)、87-99 頁。
- 小堀真 (2010) 「価値意識の国際比較—幸福感とその規定要因に関する日独比較のための基礎分析—」『社会学論叢』(第168号)、49-60 頁。
- 高山市 HP (2024 年、1 月 25 日) 市街地景観保存区域について | 高山市、高山市。参照 <https://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000061/1005212/1003999.html>
- 田中聡美・布施淳子 (2022) 「病院に勤務する看護師の職務に対する幸福感の認識」『日本看護研究学会雑誌』(45)。
- 樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して (第2版)』ナカニシヤ出版。
- 文化庁 HP (2024 年、1 月 25 日) 重要伝統的建造物群保存地区、文化庁。参照 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/>
- 見田宗介 (2018) 『現代社会はどこに向かうか—高原の見晴らしを切り開くこと』岩波新書。

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

- 山本質素・嘉吉純夫・巖島行雄・大塚友美・藁谷哲也・小林紀由・落合康浩・高橋陽一郎・小堀真・木下征彦・畠山輝雄・小堀真・吉田宏之・上野山晃弘（2011）「社会経済変動と文化・伝統の変容の幸福への影響に関する学際的研究—日本を分析事例として」『研究紀要』（第 81 号）、233-261 頁。
- 山本質素・嘉吉純夫・巖島行雄・大塚友美・藁谷哲也・小林紀由・落合康浩・高橋陽一郎・上野山晃弘・畠山輝雄・小堀真・吉田宏之・木下征彦（2012）「社会経済変動と文化・伝統の変容の幸福への影響に関する学際的研究—飛騨・高山地域を分析対象として」『研究紀要』（第 83 号）、115-161 頁。
- Diener and Diener, 1995, "Factors Predicting the Subjective Well-being of Nations," *Journal of Personality and Social Psychology*, 69 : 851-64.
- Kitayama, S., Markus, H. R. and Kurokawa, M., 2000, "Culture, Emotion, and Well-being : Good Feelings in Japan and the United States," *Cognition and Emotion*, 14 : 93-124.
- Layard, R. 2005. *Happiness: Lessons from a New Science*. Penguin Press.
- Veenhoven, R. (2000). "The Four Qualities of Life : Ordering Concepts and Measures of the Good Life," *Journal of Happiness Studies*, 1, 1-39.

(Endnotes)

- 1 「質的データの中でも特に文章型すなわちテキスト型のデータを分析する方法」（樋口 2020:1）で、計量テキスト分析の一種。
- 2 データの詳細については後述。
- 3 「昭和 50 年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになりました。市町村は、伝統的建造物群保存地区を決定し、地区内の保存事業を計画的に進めるため、保存条例に基づき保存活用計画を定めます。国は市町村からの申出を受けて、我が国にとって価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します」（文化庁 HP）
- 4 「歴史上意義を有する建築物などが周囲の自然的環境と調和し、高山市の伝統と文化を具現及び形成している地域を、「市街地景観保存区域」として指定しています」（高山市 HP）
- 5 屋台組とは、「高山市内の旧城下町に位置する 2 つの神社、稗田神社と櫻山八幡宮の氏子たちによって独自に組織されている集団であり、高山市内に 23 組が現存」している。また、「江戸時代から続く伝統的地域集団」であり、「対面的な人間関係にもとづく強固な絆を特徴とする」集団である（山本ほか 2012:116）。
- 6 ただし、のちにも触れるようにここに挙げられた 3 つの概念もそもそも同一のものとしてよいのかどうかについてはまだ議論がある（ex. 袖川・田邊 2007; 小林ほか 2015）。

- 7 これについては例えば小堀が日本と西ドイツのデータを用いて権威主義関連項目の国際比較を行い、日独で傾向が大きく異なること、また権威主義関連の価値観が社会的な位置によって異なることを確認している（小堀 2010）。
- 8 実際の回答をみると、願望を記載していると思われるものはほとんどなく、多くは自身の生活における場面を記入している。
- 9 あらかじめ用意した質問項目に基づいて質問するが、インタビューの流れによって適宜柔軟に質問の追加などを行う手法。
- 10 旧高山市は、1875年に高山町が成立して以降、1955年に大八賀村を編入したまでの地域を指す。現在では2005年に大野郡丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、吉城郡国府町、上宝村を合併して現在の高山市となっている。
- 11 調査目的の一つとして「高齢者のデータを収集する」という目的があったため。
- 12 以下 SSM2005。
- 13 以下 2007 年宗教調査。
- 14 以下 WVS。
- 15 60 代の人口割合が 25% 程度であるのに対し、今回の調査データでは 35% 以上となっている（山本他 2012:148）
- 16 例えば市が公表しているデータでは 20 代の人口比率が 9% 前後であるのに対し、今回のデータでは 5% 以下、60 代は 15% 前後であるのに対し 35% 前後となっている（山本ほか 2012:120）。
- 17 2007 年宗教調査では 7 割前後が「信仰を持たない」と回答しているのに対し、今回の高山調査では 3 割程度にとどまっている。他方で仏教を信仰していると回答した層は 2007 年宗教調査では 3 割前後であるのに対し、高山調査でのそれは 6 割を超えている。なお、今回のデータの傾向と直接関連があるのかはわからないが、高山市には「崇教真光」という新興宗教団体が本部を構えており、宗教が比較的盛んな都市といえるのかもしれない。
- 18 文章を最小の単位（形態素）に分解し、品詞などを分類すること。
- 19 例えば「毎日楽しく過ごしている」という文では「毎日」は副詞として抽出されるし、「毎日新聞」の場合は複合語の名詞として抽出される。
- 20 というのも、今回の分析では「幸福な状況」がどのようなものかを同定することが目的であって、それが人生で一度のことなのか、それとも何度も繰り返されることなのかは当面問題としていないからである。ただしそれはあくまでも今回の分析の目的とは異なるためであり、「幸福な状況がどれくらい訪れるものなのか」を探索することが重要ではないと判断した訳ではない。
- 21 「幸せ」「感じる」については、これらをいずれも用いているほぼ全ての回答で「幸せを感じる」という文がみられた。今回の分析では、「幸せを感じる」の前にくる言葉（場合によっては後ろにもくるが）、つまりどのような状況、瞬間に「幸せを感じる」のかに焦点を当てているため、今回の分析から除いても問題ないと判断した。
- 22 自己組織化マップとは「ニューラルネットワークの一種で、中間層をもたない 2 層型の教師なし競合学習モデルであり、高次元空間の複雑で階層的な関係を 2 次元空

人はどのような状況で幸福と感じるのか—テキストマイニングを用いた幸福研究の助走として—

平面に表現可能であるとされている」ものである（樋口 2020:24）。端的に言えば、このマップを描くことで、どのような語同士が似通った文脈で使われているかを把握できるようになる。

23 Social Economic Status、以下 SES と表記。

24 具体的には最小スパニングツリーだけを描画する設定にしている。簡単にいえば外部変数と特に関係の強い語のみが表示されている。

25 N 42, E 41, D .048。これは今回の分析で描画されている語 (node) の数が 42、線 (edge) として描画されている共起関係の数が 41、密度 (density) が .048 であったことを示す。密度とは「実際に描かれている共起関係の数を、存在しうる共起関係 (edge) の数で除したものである」（樋口 2020:185）。

26 N 32, E 31, D .062。

27 N 34, E 33, D .059。

28 N 36, E 35, D .056。

29 N 34, E 33, D .059。

30 N 35, E 34, D .057。

青山学院大学地球社会共生学会会則

(2014 年 11 月 12 日制定)

改正 2015 年 9 月 16 日

(名 称)

第 1 条 本会は、青山学院大学地球社会共生学会と称する。

(事務所)

第 2 条 本会の事務所は、青山学院大学地球社会共生学部合同研究室に置く。

(目 的)

第 3 条 本会は、地球社会共生学に関連する領域における研究及び教育の発展に寄与する諸活動を行うことを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、次の事業を行う。

- (1) 会報、研究紀要等の発行
- (2) 研究会、講演会等の開催
- (3) 資料の収集整備
- (4) 他大学・研究機関等との学術交流
- (5) その他本会の目的を達成するために適当と認める事業

(会 員)

第 5 条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 青山学院大学地球社会共生学部の教授、准教授、助教及び助手
 - (2) 学生会員 青山学院大学地球社会共生学部の学生
 - (3) 賛助会員 青山学院の校友で本会の趣旨に賛同し、目的達成に協力する者
- 2 会員は、本会発行の学術印刷物の配布を受けるほか、本会の事業に参加することができる。

(名誉会員)

第6条 正会員が定年退職等で本会を退会するときで、次に規定するいずれかの基準を満たしている者については、評議員会の議決により、名誉会員にすることができる。

- (1) 10年以上本会の正会員であった者
- (2) 前号に該当する者以外で、本会の目的達成に対して顕著な功績を有するなど、特別な理由のある者

(会 費)

第7条 正会員及び学生会員は、年 5,000 円の会費を納入しなければならない。

(役 員)

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 理事 若干名
- (3) 会計監事 1名

(会 長)

第9条 会長は、地球社会共生学部長をもって充てる。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

(理 事)

第10条 理事は、本会の目的達成上において必要な職務を分担する。

- 2 理事は、正会員の中から会長が委嘱する。
- 3 理事の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会計監事)

第11条 会計監事は、本会の会計を監査し、その結果を評議員会に報告する。

- 2 会計監事は、会長及び理事以外の正会員の中から会長が委嘱する。
- 3 会計監事の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(評議員会)

第12条 本会の運営に当たって、重要な事項を審議し、及び決定するため、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、正会員をもってこれを構成する。
- 3 評議員会は、少なくとも年1回、会長が招集し、議長となる。
- 4 評議員会は、事業計画、会計、会則改正その他の重要事項を審議し、及び決定する。

(理事会)

第13条 本会の運営に当たって、必要な事項を協議し、及び執行するため、評議員会の下に理事会を置く。

- 2 理事会は、次に規定する者をもって構成する。

- (1) 会長
- (2) 理事
- (3) 会計監事

- 3 理事会は、会長が必要に応じて招集し、議長となる。
- 4 理事会は、年度の始めに、年度事業計画書及び年度事業報告書を評議員会に提出する。
- 5 会長は、必要があると認める場合は、第1項の規定による協議の結果を、評議員会に報告する。

(会 計)

第14条 本会の会計は、会費並びに補助金及び寄付金を基礎とする。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事 務)

第15条 本会の事務処理は、地球社会共生学部合同研究室にて行う。

(改廃手続)

第16条 この会則の改廃は、評議員会における3分の2以上の賛成を得て、会長がこれを行う。

附 則

この会則は、2015年4月1日から施行する。

附 則 (2015年9月16日)

この会則は、2015年9月17日から施行する。

執筆者紹介

藤 原 淳 賀

青山学院大学地球社会共生学部 教授

専門研究分野：キリスト教神学・キリスト教社会倫理学

小 堀 真

青山学院大学地球社会共生学部 准教授

専門研究分野：社会学

編集後記

2023 年度も『青山地球社会共生論集 第 8 号』を無事にお届けできますことを嬉しく思います。本号の刊行にあたり、ご多忙のなか査読を快く引き受けてくださった学会員の先生方には大変感謝しております。また、刊行までの手続きを細やかにサポートしてくださった地球社会共生学部合同研究室の森田様、安部様、そして印刷出版に迅速かつ丁寧にご対応いただいたヨシダ印刷株式会社の山川様、岡山様に心から御礼申し上げます。

2023 年は、アフター・コロナ生活の浸透に安堵を覚えたのも束の間、世界各地が洪水、山火事、地震などのさまざまな自然災害に見舞われたほか、依然として収束を見ないロシア・ウクライナの戦争、さらにイスラエルとハマスの交戦により、多くの人々が住む場所、生活の糧、そして愛する人を失いました。日本では、2024 年の元日に石川県能登地方を大地震が襲い、避難生活を送る人々は先の見えない不安を抱えています。とくに高齢者の多い能登地方では、たんに食料や衛生面のみでなく、認知症や身体に不自由を抱える高齢者のための特別な支援の必要性がメディアなどで取り沙汰されました。

第 8 号では、こうした問題／課題に重要な示唆を与えうる 2 つの論稿が掲載されました。藤原淳賀会員による論説は、ロシア・ウクライナとイスラエル・パレスチナの戦争に言及し、キリスト教における和平構築の意義と使命を論じています。また、小堀真会員による幸福研究に関する論考では、高齢者の幸福の醸成における家族の存在を含めた、人と人とのつながりの重要性が指摘されています。地球社会共生論集は、地球上で起こりうる非常事態に対して、互いを思いやり、助け合いながら、ともに困難を乗り越える共生マインドとエシカル・シンキング、そしてレジリエンスの大切さを発信するものと言えます。

不安な状況のなかでも、学内外のさまざまな活動に取り組み、また留学先で多くの経験を積んで帰国した学生の揚々とした姿には大いに励まされます。来たる 3 月の卒業式ではコロナ禍での大学生活を乗り切り、社会人としての一步を踏み出す卒業生の晴れやかな笑顔が見られることでしょう。若者の未来をより良いものにするために、本論集がこれからも地球規模の課題に果敢に向き合い続けることを期待しつつ編集後記を結びたいと思います。(美)

[Summary]

Absolutes and Relativities in Christian Social Ethics: For Japanese Christianity in Times of War in the 21st Century

Rev. Prof. Atsuyoshi Fujiwara, Ph.D.

Abstract

For nearly 80 years after World War II, the Church in Japan has been able to maintain the ideal of pacifism. It has been virtually assumed that if pacifism was upheld, war would not occur. However, acts of aggression can indeed happen, as witnessed in recent years.

Fortunately, post-war Japan was not subjected to any military invasions due to a combination of factors. However, Japan now finds itself in a situation where a neighbouring country has started a war and has mentioned the use of nuclear weapons. Furthermore, there are two more nuclear-armed states with dictatorial regimes located in the immediate area.

Christian theology discusses absolute matters as well as relative issues. The churches have taken a variety of positions on social ethical issues in its 2000-year history. Both the church and the state should be committed to ensuring that people's lives are protected, war is avoided, and peace is created. And they need to know what is effective for this, as a "relative issue." In order to find one's own position in anticipation of "that time," it is necessary to engage in deep theological reflection, to grasp the reality of the great evil, and to think about how to respond to it.

Is the pacifism on which the majority of Japanese churches stand steadfast? Or will it be swallowed up by public opinion, which may take a sharp turn towards realism if something happens? This essay is a theological discussion that encourages them to prepare for this. It argues that the absolute must not be relativised and the relative must not be absolutised. The Japanese Church has made such mistakes in the past. As examples, "*the Japanese Bride* incident" and "EXPO'70 issue" are discussed.

What situations make people feel happy? As a Preliminary Investigation into Happiness Research Using Text Mining

KOBORI, Makoto

Abstract

This paper aims to exploratively analyze how people perceive happiness in various situations using text-mining techniques. While there is a wealth of research on well-being, studies employing text mining, specifically on open-ended responses, are still relatively scarce. Therefore, data collected through a mail survey based on random sampling was gathered and analyzed. The survey question was phrased as follows: “When do you feel ‘happy’? Please provide specific situations or actions; anything is fine (e.g., when working, spending time with family, etc.).” The obtained responses were subjected to text mining, focusing on the associations with gender, age, education, employment status, household income, religious beliefs, and more. The results revealed several insights, including 1) a common mention of “family” as a source of happiness, 2) a significant gender difference where women cited a variety of situations for happiness, while men tended to mention a limited set such as “family” or “work,” highlighting substantial gender disparities.

青山学院大学地球社会共生学会評議員

2024 年 2 月現在

大澤 由実	評議員
岡本 真佐子	評議員
樺島 榮一郎	評議員
亀井ダイチ アンドリュー	評議員
菅野 美佐子	理 事 (23 年度)
菊池 尚代	理 事 (2023-2024 年度)
熊谷 奈緒子	評議員
桑島 京子	評議員
幸地 茂	評議員
小堀 真	評議員
齋藤 大輔	評議員
咲川 可央子	評議員
高田 百合奈	評議員
橋本 彩花	評議員
林 拓也	理 事 (2015-2024 年度 学生連合担当)
原 晋	評議員
福原 直樹	評議員
藤原 淳賀	理 事 (2023-2024 年度)
古橋 大地	理 事 (2023-2024 年度)
升本 潔	理 事 (2023-2024 年度)
松永 エリック・匡史	会 長 (2023-2024 年度)
村上 広史	理 事 (2023-2024 年度)
山下 隆之	理 事 (2023-2024 年度)
堀江 正伸	理 事 (23 年度)

無 断 禁 転 載

令和 6 年 3 月 印刷

令和 6 年 3 月 発行

青山地球社会共生論集 8 号

編集・発行 青山学院大学地球社会共生学会

<http://gsc.aoyama.ac.jp>

神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1

電 話 042(759) 6 3 8 8

印 刷 所

ヨシダ印刷株式会社

© 青山学院大学地球社会共生学会 2024

AOYAMA CHIKYU SHAKAI KYOUSEI RONSHU
(The Aoyama Journal of Global Studies and Collaboration)

AOYAMA GAKUIN DAIGAKU
CHIKYU SHAKAI KYOUSEI GAKKAI
(Aoyama Gakuin University Society of Global Studies and Collaboration)
5-10-1 Fuchinobe, Chuo-ku, Sagamihara, Kanagawa, Japan

Copyright © Aoyama Gakuin University Society of
Global Studies and Collaboration, 2024